

平成24年度熊本県道徳教育総合支援事業
(道徳教育用郷土資料「熊本への心」活用事業)

郷土を愛する心を深めるために

- 道徳教育用郷土資料「熊本への心」活用事例集 -



熊本県教育委員会

はじめに

平成18年に教育基本法が改正され、「生きる力」を育むという理念の実現に向けて改訂された学習指導要領が、本年度、中学校においても全面実施を迎えました。今回の改訂の基本方針の一つである「道徳教育の充実」に関しては、改正教育基本法によって新しく示された理念を踏まえ、「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛すること」や「公共の精神を尊ぶこと」、「他国を尊重すること」や「環境の保全に貢献すること」について、新たに目標に追加されたところです。

このことを踏まえ、本県においては、郷土熊本がもつ豊かな自然や、その風土が育んだ多くの伝統や文化、幾多の偉大な先人の思いや願いを子どもたちに伝え、人間の生き方や考え方を共感をもって学び、郷土に対する愛着を深めていくことができるよう、本県独自の道徳教育用郷土資料「熊本の心」を改編し、昨年3月に配付しました。各学校においては、「熊本の心」の活用を年間指導計画に位置付けるとともに、道徳の時間を核に様々な活用がなされ、学校や地域の実態に応じた授業や創意工夫ある取組みが行われているところです。

県教育委員会では、本年度、全小中学校の道徳教育推進教師対象の研修会を開催するとともに、「熊本の心」のより効果的な活用を図るため、9校の推進校を指定しました。本活用事例集は、各指定校において取り組まれた「熊本の心」の活用事例を集約し、掲載したものです。今後は、本事例集の取組等を参考に、「熊本の心」について、道徳の時間における活用はもとより、様々な教育活動での活用、さらには、家庭や地域社会との連携の深化等、学校や地域の実態に応じて、より一層効果的な活用に取り組んでいただきたいと考えています。

道徳教育は、道徳の時間を要とし、学校の教育活動全体を通じて行うものですが、その充実を図るうえでは、保護者と学校、地域の連携が不可欠です。家庭や地域の方々に、学校における道徳教育に関して理解を深めていただくために、別途、リーフレット「豊かな心を育む道徳教育の一層の充実を目指して」も作成しました。各学校におかれては、本事例集の活用と併せて、機会をとらえて、保護者や地域の皆様に広く周知いただくよう加えてお願いします。

最後に、本事業の推進に御協力いただいた市町村教育委員会、研究指定校をはじめ、関係の皆さまに厚く御礼申し上げます。

平成25年3月

熊本県教育委員会

目 次

はじめに

1	豊かな心を育む道徳教育の充実－熊本県教育委員会の取組から－	3
2	特色ある活用実践の概要	7
3	各研究指定校の取組	
	(1) 宇城市立豊川小学校	12
	(2) 荒尾市立荒尾第四中学校	18
	(3) 山鹿市立米田小学校	25
	(4) 菊池市立菊池南中学校	31
	(5) 阿蘇市立波野小学校	36
	(6) 嘉島町立嘉島西小学校	40
	(7) 八代市立昭和小学校	45
	(8) 人吉市立人吉東小学校	49
	(9) 上天草市立龍ヶ岳中学校	52
4	平成24年度熊本県道徳教育総合支援事業（道徳教育用郷土資料「熊本の心」活用事業）委託要項	57
5	資料	59
	(1) 初等教育資料 「クローズアップ教育委員会」	平成24年11月号
	(2) 中等教育資料 「魅力的な教材の開発・活用による道徳教育の推進「実践研究」	平成25年2月号



豊かな心を育む道德教育の充実

—熊本県教育委員会の取組から—

道徳教育の方向性について

平成18年度熊本県道徳教育推進協議会からの提言

「豊かな心をはぐくむ道徳教育の一層の充実のために」（平成19年3月）

提言1 道徳性を培う学校や学級の環境づくりを進めましょう

◆校舎・校庭や教室の整備をしましょう

◆児童生徒が生き生きと活動できる人間関係づくりに心がけましょう

提言2 学校、家庭、地域が連携した道徳教育を計画的に進めましょう

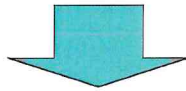
◆自らの生き方の自覚を深める、体験活動を工夫しましょう

◆学校・地域の人材や特色を生かした計画的な指導を充実させましょう

提言3 多様な展開を工夫して魅力的な道徳の時間にしましょう

◆道徳の特質を踏まえた学習指導過程を創意工夫しましょう

◆児童生徒の発達段階と実態を踏まえた心に響く資料の開発と活用の創意工夫に努めましょう



小・中学校学習指導要領解説 道徳編（平成20年8月・9月）

【道徳の目標】

○道徳の時間を要として教育活動全体を通じて行うこと

【推進体制の整備と指導計画の作成】

ア 道徳教育推進教師を中心とした協力体制の整備

■体制づくりの3つのポイント

①校長の方針の明確化

②道徳教育推進教師の役割の明確化

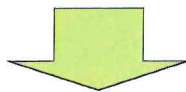
③全教師による協力的・機能的な体制

イ 道徳教育の諸計画の具現化

ウ 指導内容の重点化

【各教科等での道徳性の育成】

○各教科等においても、道徳の内容についてそれぞれの特質に応じて適切な指導を行うことが求められている。



道徳教育の充実を図る

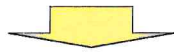
熊本県教育振興基本計画「くまもと『夢への架け橋』教育プラン」(平成21年3月)より

3 豊かな心をはぐくむ教育の充実 (3) 道徳教育の充実 「取組の方向」より

○各学校における創意工夫ある授業研究会や授業実践DVDを活用した研修などを通じて教師の指導力の向上を図り、道徳教育の要としての道徳の時間の質の向上に努める。

○先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とした魅力的な教材の開発や活用の推進を図る。

特に、郷土の先人の伝記や逸話などから人間の生き方や考え方を共感をもって学び取ったり、郷土に対する愛着を深めることができるよう、道徳用副読本「熊本の心」などの郷土資料を子どもたちの実態に応じて活用する。



道徳の授業の充実を図る

小学校道徳授業実践DVD・中学校道徳授業実践DVD

「道徳の授業の一層の充実のために」(平成21年3月)

【道徳の時間の特質】

- 「自己を見つめる」時間
- (小学校)「道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深める」時間
- (中学校)「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める」時間
- 「道徳的実践力を主体的に身に付けていく」時間

【道徳の時間の指導の課題点】

- ▲何について考えるのか、あいまいなままで授業をしている。
- ▲国語の読み取りや特別活動と混同している。

【授業づくりのポイント】

- 道徳的価値の自覚を深める発問及び発問構成の工夫
道徳的価値の自覚を深めるには、中心的な資料を基に、次の4つの視点に深く迫る発問及び発問構成の工夫が求められる。
 - ①人間理解(人間の弱さ、醜さ、強さ、気高さ等についての理解を深めること)
 - ②価値理解(道徳的価値の本質についての理解を深めること)
 - ③自己理解(道徳的価値との関わりで自己を見つめ、自己理解を深めること)
 - ④自己発見・希望(自らの成長を実感し、自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにすること)

この4つは、考えさせる順序や段階ではなく、考えさせる視点である。

- ◆教師は、発問の意図を明確にもち、意図した発言を引き出せる発問かどうかを十分に吟味し、よりよい発問にしていくことができる。



「熊本の心」の発行

道徳教育用郷土資料「熊本の心」読み物資料，指導資料，点字版，DVD，CD
(平成24年3月)

【教材の目的】

郷土の先人の伝記や逸話などから人間の生き方や考え方を共感をもって学び取ったり，伝統や文化の継承などから郷土に対する愛着を深めたりする

【読み物資料の特徴】

- ◆熊本県の先人に関する教材（郷土熊本の先人の生き方に学ぶ教材）
- ◆熊本県の伝統や文化に関する教材（郷土の伝統や文化の継承から学ぶ教材）
- ◆その他重要な内容に関する教材（規範意識，命の大切さ等を学ぶ教材）

【活用方法】

- ◆道徳の時間の教材として活用するとともに，学校の教育活動全体を通じた道徳教育の推進を図る。
- ◆教室に置いて，朝読書や休み時間などにも自分が読みたい教材を繰り返し読むことができるようにする。
- ◆家庭に持ち帰り，家族みんなで読むことができるようにする。
また，図書館や公民館にも整備し，地域の方々にも読んでもらえるようにする。

「熊本の心」を効果的に活用する

道徳教育用郷土資料「熊本の心」活用事例集
「郷土を愛する心を深めるために」(平成25年3月)

趣 旨

- ◆「熊本の心」を学校の教育活動全体を通じて活用し，道徳教育の充実を図った事例を紹介する。
- ◆「熊本の心」を活用して，家庭や地域への啓発を図った事例を紹介する。

校内研修の実施

研究授業の実施

道徳の時間の授業公開



各研究指定校の実践

1 学校における活用（「道徳の時間」での活用）

小3年	資料名 「かけ足登校」	内容項目 1-(2)
-----	-------------	------------

(1) 事前の準備

- ・金栗四三の業績については、インターネットを利用して資料収集を行った。
- ・人物画やその時代の写真等の資料を収集した。
- ・ゲストティーチャー（GT）：緒方亜香里選手・ロンドンオリンピック出場）は当日の来校ができないため、事前に自宅へ出向きビデオレターとして撮影を行った。また、本人が着用した柔道着を借用した。
- ・事前アンケートをとり、児童の実態把握を行った。

(2) 本時の学習（実践事例）

① ねらい

困難なことがあっても、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 3年生になって、できるようになったことを出し合う。 2 金栗四三について知る。	○3年生になってできるようになったことは何ですか。 ・リコーダーがひけるようになった。 ・水泳で25メートル泳げた。	○自分のことを見つめ「あきらめない心」への方向付けをする。 ○写真を提示し、四三の業績を簡単に紹介する。	写真
展開	3 資料「かけ足登校」を聞いて話し合う。 ○感想発表 ○四三が小さい頃の場面 ○四三が夢中になって走り続ける場面	○お話を聞いて、どんな感想をもちましたか。 ・3回もオリンピックに出るなんてすごいな。 ・どうやったらオリンピック選手になれるのだろう。 ・いやだな、きついな。 ○四三は、上級生を追いかけ走っている時、どんな気持ちだったでしょう。 ・もうやめたいな。 ・上級生はいいな。 ・兄さんや家族のために頑張ろう。 ◎どんな気持ちで、何十年も四三は走り続けたのでしょうか。 ・自分の弱い心には絶対負けない。 ・もっと速くなりたい。 ・あきらめずに走ってオリンピック選手になりたい。	○資料を範読しながら挿絵を提示し、流れをつかませる。 ○資料を聞いた感想を発表させ、主人公の生き方や気持ちに着目させる。 ○くじけそうになる気持ちや上級生をうらやむ気持ちを共有できるようにする。 (人間理解)	挿絵 挿絵 ワークシート

	4 やろうと決めたことを最後までやり通した経験や、今、挑戦していることを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・走るのが楽しくなった。 <p>○自分の頑張っていることを紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なわとびで二段とびができるようになった。 ・漢字大会で満点がとれた。 ・逆上がりに挑戦している。 	<p>【評価】 (発表, ワークシート) 四三の心の強さ、すばらしさに気付くことができたか。</p> <p>○やり通したり、今、挑戦している経験をお互いに出し合い、粘り強くやり遂げようとする意欲を高める。(配理解)</p>	
終末	5 ビデオレターを見て、自分の生き方についての考えを深める。	<p>○今日は、みんなが知っている先輩からビデオレターが届いています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごいな。 ・ぼくにもできるかな。 ・私もやってみようかな。 	<p>○緒方亜香里選手からのビデオレターを観て、あきらめずに努力することの素晴らしさを感じとらせたい。 (自己発現・希望)</p>	柔道着ビデオレター

活用のポイント

〈事前指導〉

○四三が草履をはいて走った経験を体験させるために、総合的な学習の時間を利用して全員が草履をはいて運動場を走った。そのことにより、四三と比べながら自分をより深く見つめることができた。

〈板書構成〉

○主人公の心の変容が視覚的に分かるように、右のように板書構成を工夫した。

〈発問・発問構成〉

○中心発問についてワークシートに書かせることで、児童一人一人が自分の考えを明確に持てるようにする。その上で、考えを交流させ（言語活動）、より高い価値に気付くようにする。

〈自分を見つめる時間の確保〉

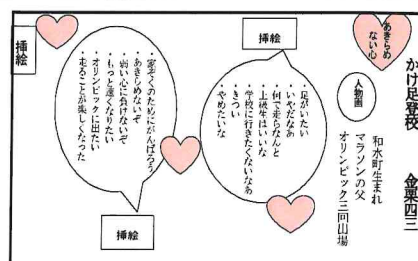
○自分を見つめる時間を十分確保し、今までの自分を振り返り、やり通した経験や今、挑戦している経験を出し合わせ、お互いの頑張りを認め合うようにした。

〈ビデオレターの活用〉

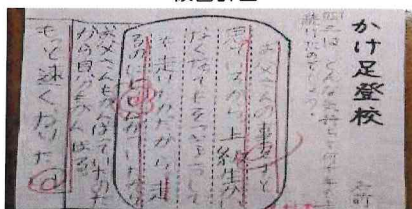
○終末では、郷土出身でロンドンオリンピック柔道日本代表の緒方亜香里選手からのビデオレターを流した。オリンピック選手からのメッセージに、児童は真剣に、そしてうれしそうに画面を見つめていた。偉大な選手の挫折や失敗、それを乗り越えてきたこと、またこれから頑張っていきたいという言葉が児童の心にも強く刻まれた。郷土出身者のビデオレター等は有効であった。

〈事後指導〉

○学習後、本時で見つめた心「あきらめない心」について、日記帳を用いて家庭でもう一度じっくり考える場を設定した。



板書計画



ワークシート

小4年	資料名「美しい音色を求めて」	内容項目 4-(6)
-----	----------------	------------

(1) 事前の準備

- ・「心のノート」や事前アンケートを活用し、昔からの伝統についての実態把握を行った。

<p>〈事前アンケートの質問事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊川校区に、昔から受け継がれてきて、未来にも伝えていきたい伝統があることを知っていますか。 ・日本の伝統や文化、行事で、素晴らしいと思うものは何ですか。 ・どんなところが素晴らしいと思いますか。また、あなたは地域の行事等にはどんな気持ちで参加していますか。

- ・生け花等を習っている児童に、習い事に対する思いを日記に書いてもらった。
- ・宇土市在住の楽器店四代目石井方浩氏（方二のご子息）を訪問し、伝統を守り続ける思いや楽器を作るうえでの苦勞等を聞いた。
- ・児童に撥と駒の写真を提示するために、DVD資料をプリントアウトしたり、石井方浩氏より写真等を借用したりした。
- ・児童に地唄について理解させるために、石井方浩氏より地唄のCDを借用した。

(2) 本時の学習（実践事例）

① ねらい

我が国の伝統と文化に関心を持ち、伝統や文化を大切にしていこうとする心情を育てる。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点	備考
導 入	<p>1 日本の伝統文化に関する事前アンケートを見る。</p> <p>2 地唄のCDを聴き三味線の駒や撥、石井方二についての説明を聞く。</p>	<p>○日本の伝統文化にはどんなものがあつたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和服や和食 <p>○地唄を聴いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この楽器の音色は音楽の時間に聴いたな。日本の伝統なんだね。 ・宇土の人だったんだね。 	<p>○アンケート結果を紹介し、ねらいとする価値へ方向付ける。</p> <p>○三味線や琴の音色を聴くことで資料理解につなげる。</p>	<p>アンケート表</p> <p>地唄CD 地唄三弦の写 方二の写 真</p>
展 開	<p>3 資料「美しい音色を求めて」を視聴し、話し合う。</p> <p>○11歳ごろの場面</p> <p>○父を亡くした場面</p> <p>○駒と撥づくりを続ける決心をした場面</p>	<p>○11歳の方二はどんな気持ちで父の手伝いをしていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きついなあ、遊びたいなあ。やりたくないなあ。 ・一流の先生に褒められた。 <p>○15歳でお父さんを亡くした方二は、どんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教えてくれる人がいないしやめたい。でも、自分が作らなかつたらどうなる。 ・父のようにやれるかな。 <p>◎方二はどんな考えから駒と撥づくりを続けると決心したのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさん、お父さんも頑張ってきたものを止めるわけにはいかない。 ・石井駒や石井撥を待っている人がいる。 ・お父さんのやり方をしっか 	<p>○範読DVDに合わせて、挿絵を掲示する。</p> <p>○少しずつ褒められるような仕事ができるようになった時の心の変容を捉えるようにする。(人間理解)</p> <p>○父の仕事を継ぎたいが、やり方が分からず葛藤する場面を捉えるようにする。(価値理解)</p> <p>○方二が駒・撥づくりの道を進むと決心した理由を問うことにより、伝統や文化の価値の大切さを感得できるようにする。(人間理解・価値理解)</p>	<p>DVD 挿絵</p> <p>ハート</p> <p>挿絵 ハート</p> <p>ワークシート ハート</p>

	○名人とよばれるようになった場面	り思い出せば、何とかできるかもしれない。 ○日本一の名人とまで言われるようになった方二は、どのようなことを考えたでしょう。 ・名人になってうれしいが、子どもや孫たちに後を継がせたい。 ・ずっと美しい音色の三味線の音が日本の国に響いてほしい。	○自分が第一人者となって嬉しいというだけでなく、後々の世代にも日本の伝統を受け継いでほしいと考えていることを捉えさせるようにする。 (価値理解)	
	4 日本の伝統文化のよさについて話し合う。	○自分の身の回りにある伝統や文化、そしてそのよさを紹介しましょう。 ・私は生け花が好きで今も続けています。 ・私は習字を頑張ってます。	【評価】 (発表、ワークシート) 日本の伝統や文化に関心をもち、大切にしようとする気持ちを高めることができたか。	児童感想 児童作品 (生け花・習字)
終末	5 ゲストティーチャーの話聞く。	○日本伝統文化クラブの担当の先生のお話を聞きましょう。 ・日本の文化って素晴らしいんだな。 ・伝統を守っていくことは大切なんだな。	○ゲストティーチャーの話に基づき日本の伝統や文化を大切にしていこうと気持ちを高める。(日記規・希望)	本校日本伝統文化クラブ担当職員

活用のポイント

〈心のノートの活用〉

○心のノート(p92, 93)を活用し、伝統文化について事前に調べておくようにする。

〈資料提示〉

- 導入で児童の事前アンケート結果を掲示する。
- 資料内容の理解を助けるために、地唄の演奏を聴かせたり、撥や駒の写真を提示したりする。
- 教師による範読ではなく、付属の朗読DVDを利用する。

〈発問・発問構成〉

○中心発問にしっかり時間をかけ、駒や撥づくりに励む方二の気持ちを考えさせる。

〈言語活動〉

○書く活動は、方二がどんな気持ちで駒と撥づくりに励んでいるのか考える場面に絞り、その後2～3人での対話活動を取り入れる。

〈自分を見つめる時間の確保〉

○現在、習い事で生け花をしている男児に、実際に生けた花を展示してもらい、生け花を習っている思いについて日記を基に話してもらう。

○我が国の伝統や文化を大切にしようという気持ちを養うために、本校日本伝統文化クラブ担当の職員の話聞く。

2 学校における活用（「道徳の時間」以外での活用）

（1）心を豊かにする環境づくり

好ましい環境が児童の心の成長を促すと考え、豊かな心を育むための教室環境と校内環境の見直しを行った。

道徳の時間に学習した内容をいつでも振り返りができるように、教室に「道徳コーナー」、廊下には、「熊本の心の木」「郷土の偉人コーナー」等を設置して、郷土を愛する心の育成を図る環境づくりを行った。

活用のポイント

〈全教室に道徳コーナーの設置〉

- 全ての教室に「道徳コーナー」を設けることにより、道徳の時間に学習した内容（学んだ心）をいつでも振り返ることができるようにした。

〈廊下に「熊本の心の木」の設置〉

- 「熊本の心」に出てくる資料の地域をクイズにして、地図に掲示するような場を設けた。そのことにより、熊本県内のどの地域の話なのか位置を確認することができた。

〈廊下に「郷土の偉人コーナー」の設置〉

- 資料に出てくる管内の偉人の写真と簡単なコメントを付けて掲示した。そのことにより、児童は学習した（する）人物について、興味関心をもったり、振り返ったりすることができた。



道徳コーナー 熊本の心の木 郷土の偉人コーナー

（2）全校集会「くまもとのこころのおはなし」

今年度配付された「熊本の心」の付属の朗読DVDを、全校集会で活用した。今回は低学年資料「火たきのしごと」を取り上げ、新聞記事と一緒に身近な郷土の話として紹介をした。地域のために働く女の子の行動の素晴らしさに気付くことができた。



DVDの放映

活用のポイント

- 低・中・高学年の道徳担当者が輪番で進行から資料の選択までを行い、全校集会時に付属の朗読DVDを流す。DVDを流す前後には、時期にあった出来事や新聞記事等の話題も付け加えてもらう。

- 集会では、道徳的価値には触れず、身近な郷土の話として紹介するようにする。

3 家庭・地域での活用、啓発

（1）家庭と学校の連絡ノート（心の貯金通帳）

道徳的实践力を身に付けるためには、学校教育活動だけでなく、家庭・地域との連携・協力が不可欠である。

1年生では連絡ノート（心の貯金通帳）をつくり、学習した内容を家庭に伝え、家庭学習で家族と一緒に道徳の時間の学習を振り返る機会を設けた。家庭での音読に道徳の読み物資料を利用することで、保護者にも「熊本の心」を知ってもらうことができた。



心の貯金通帳

活用のポイント

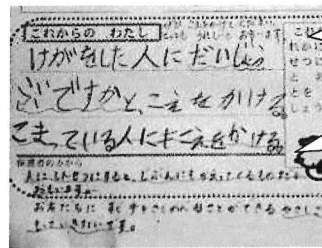
〈連絡ノート〉

- 「熊本の心」を音読に利用したことで、児童が学校で学習した内容を知ることができるとともに、「熊本の心」の啓発につながった。

- 連絡ノート（心の貯金通帳）には、学習したシートを添付し、児童が書いたシートを保護者が読

み、保護者からコメントをいただくようにしている。担任からのコメントに加え、保護者からのコメントももらえることで、児童は大変意欲的に学習や日常生活で取り組んでいこうとする気持ちが見られるようになる。

- これは、低学年での取組みだが、中学年では、「道徳日記」として保護者への啓発をするなど発達段階に応じた「連絡ノート」を作成している。



児童のワークシート

道徳の時間に自分をみつめて書いた文章

資料を読んで一緒に学習した保護者の感想

(2) 学校便り・学級通信

学校便りや学級通信に道徳の時間や体験活動など学校での取組みの様子を掲載し、家庭地域への啓発を図ってきた。「熊本の心」については、資料の紹介にとどまらず、偉人の業績などを一緒に紹介した。

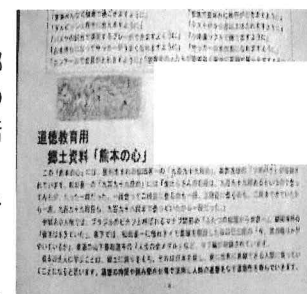
活用のポイント

〈学校便り〉

- 校長が定期的に発行する学校便りの紙面に、「熊本の心」の資料や郷土の偉人について紹介するコーナーを設けている。学校での道徳の時間について理解を図り、家庭での親子の会話や保護者同士の会話等を活発にする手段ともなっている。
- 保護者の方々も管内の偉人の話に興味をもち、毎月の発行を楽しみにされているため、よい啓発の場となっている。

〈学級通信〉

- 道徳の時間に学習した内容を写真や児童の感想等をつけて学級通信で知らせる。学校でどのような学習をしているかについての周知と、道徳の時間についての理解の両面を啓発するのに有効である。親子の会話の話題としても用いられる等、親子の触れ合いにもつながっている。



学校便り

(3) ミニ教育懇談会・地区連絡協議会

家庭・地域への「熊本の心」の啓発に向け、校区のミニ教育懇談会や豊川地区連絡協議会等を活用した。区長、民生委員、中学校の保護者など参加された方々に「熊本の心」の啓発を図った。

活用のポイント

〈ミニ教育懇談会〉

- 夏季休業日前に校区を3つに分けて、小・中の保護者及び地域関係者参加のミニ教育懇談会を行っている。その時、「熊本の心」の資料を紹介した。児童が学校でどのような学習をしているのか、出席された地域の方々は大変興味をもって聞いていただいている。資料の一部をプリントするなど具体物も提供することで、より深い理解が得られる。

〈地区連絡協議会〉

- 毎月1回地区連絡協議会を学校で行っている。この協議会には、校区選出の市議会議員をはじめ、各区長、PTA会長、関係学校長、民生委員長、消防団長、農業委員長等の各種団体の長である総勢25名が出席されており、「地域の子どもは地域で育てる」という地域の方々の熱い思いがある。協議会の日程の中で、「熊本の心」の資料（特に管内に関係する資料）を紹介している。郷土の偉人についての関心は高く、興味をもって聞いていただいている。

1 学校における活用（「道徳の時間」での活用）

中1年	資料名 「万田坑と共に」	内容項目 4－（5）
-----	--------------	------------

(1) 事前の準備

- 万田坑ステーションのボランティアガイドさんへゲストティーチャーとしての来校を依頼したが、日程の調整がつかず、ビデオによるインタビュー収録とした。
- 1学年部の職員が万田坑ステーションを見学し、ボランティアガイドさんに案内してもらった。そのことにより、職員は炭鉱で働く人々の思いをしっかりと踏まえた上で授業に臨むことができた。



万田坑

(2) 本時の学習（実践事例）

- ねらい
 勤労の意義を理解し、公共の福祉と社会の発展に努めようとする意欲を高める。
- 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 勤労の意義について話し合う。	○なぜ人は働くのでしょうか。アンケート結果を見ましょう。 ・生きるため。生活するため。 ・家族のため。	○生徒の発言を肯定的に受け止め、共感的な雰囲気づくりを心掛ける。	アンケート結果
展開	2 資料を読んで考える。 ○炭鉱や仕事の様子について考える。 ○ガイドの働く姿について、心に残ったことを話し合う。 ○ガイドの姿を通して、働くことについての自分の考えを話し合う。 3 自分が役立った経験を振り返る。	○炭鉱の仕事はどのようなものでしょう。 ・とても暑い。 ・暗くて、とても狭い。 ○退職後も炭鉱に関わり続けられたガイドさんについて、どんなことが心に残りましたか。 ・厳しい環境の中でも、人のためにやりぬいたこと。 ・苦労した仲間を支えたいと、相談員になったことに感動した。 ◎ガイドさんの姿を通して「働く」とはどのようなことだと考えましたか。 ・厳しく大変だが、達成感がある。 ・働くことは役立つこと。自分の生きがいにつながるだろう。 ○あなたの係の仕事で、みんなの役に立ったことを振り返りましょう。	○写真等で、炭鉱の仕事の厳しさを感じ取らせる。 ○資料を細かく取り上げず、生徒の心に残った姿について取り扱う。 ○自分の経験と重ねた発言について賞賛する。 ○ガイドの言葉と関連付ける。 ○仕事をやりぬく達成感や社会の役に立つ喜びなどに気付かせる。 ○書くことで自分自身のことをじっくりと振り返る。	写真 朗読DVD ワークシート
終末	4 ボランティアガイドさんの話を聞く。	○ボランティアガイドさんへのインタビューを見ましょう。	○ボランティアガイドさんの仕事への思いや願いを知ること、価値実現への意欲を高める。	インタビューDVD

活用のポイント

＜協力的な指導＞

- 学年職員が協力してゲストティーチャーにインタビューしたことで、教材研究を深めることができた。
- 終末の段階で生徒に現在ボランティアガイドをされているゲストティーチャーの話を提示することで、生徒は勤労の意義についてしっかり考えることができた。

＜視聴覚機器の使用＞

- 資料本文のDVDやゲストティーチャーのインタビューなどの映像を大型ディスプレイを使って示すことで、生徒は資料の内容をより理解しやすくなった。

中2年	資料名「俳優 笠智衆」	内容項目 4-（4）
-----	-------------	------------

(1) 事前の準備

- ・2年部職員が草枕交流館(玉名市天水町)に行き、笠智衆展を見学した。館長さんに生前の笠智衆について話を聞き、授業で使える資料を借り、持ち出せないものについては許可をもらって写真を撮影した。
- ・より臨場感を増すために、教師による範読を録音して資料を提示した。



草枕交流館

(2) 本時の学習

① ねらい

集団の一員としての役割を自覚し、自分の個性や存在価値を生かしながら、集団生活の向上を図ろうとする心情を育てる。

② 展開

過程	学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 笠智衆を知り、映画の中で果たしている役割に興味をもつ。	○笠さんを知っていますか。 ○笠さんはどんな俳優さんだったでしょうか。 ・知らない。見たことない。	○写真と映像を見せたり、ドラマの出演回数や賞の数を紹介したりして興味を持たせる。	写真・映像カード
展開	2 資料を読んで考える。 ○心に残った場面とその理由について考え、班で伝え合う。 ○周りの人が笠智衆を認めた理由を考える。 3 学級のことを振り返る。	○笠さんの生き方で心に残った場面に線を引いてください。 ○笠さんのどんな姿が心に残りましたか。理由も発表しよう。 ・冬に浴衣一枚で撮影に臨んだところ。寒いのを我慢したから。 ◎笠さんが周りの人たちに認められたのはなぜだろうか。 ・楽やずるいことをしようせず、どんな役でも努力して演じたから。 ○この学級にも自分の役割を自覚し、責任を果たそうと努力している仲間がいます。 ・しっかり見てくれてうれしい。	○笠智衆の生き方の良さを感じさせる。 ○一人一人の思いを共感的に受け止め、理由を伝えやすいような雰囲気づくりを心掛ける。 ○良い映画作りのために努力したことを確認する。 ○事前のアンケートを基に、役割を自覚し責任を果たそうとする級友の姿を伝える。	朗読したテーププリント ワークシート アンケート結果
終末	4 これからの自分について考える。	○みなさんにはこれからどんな役割が期待されているだろうか。 ○みんなのために、自分はどんな協力ができるか考えよう。	○部活動のリーダー、生徒会役員選挙などに関連付ける。 ○集団生活の向上に貢献しようとする意欲を高める。	ワークシート

活用のポイント

<協力的な指導>

- 学年部職員が協力して資料を収集し、協議したことで、教材研究を深めることができた。
- 導入時に草枕交流館からの資料や写真を使うことで、生徒は笠智衆について想像しやすくなり、資料内容の理解が深まった。

<自分と重ね合わせる指導>

- 自分の考えを述べやすくするために、グループをつくってその中で意見交換する場をつくった。
- 終末において本時で学習したことと自分の役割とをつなげる指導をすることで、今後学校の中心となって活動しようという意欲につなげることができた。

中3年	資料名 「新しい時代のために」	内容項目 4-(9)
-----	-----------------	------------

(1) 事前の準備

- ・資料の題材となった木村鉄太が著した本を授業担当者が読み、授業で使える挿絵などを探した。
- ・熊本県道徳教育研究会の参考資料を基に、現在の日本と比べるなどの授業内容づくりを工夫した。

(2) 本時の学習(実践事例)

- ① ねらい
国際的視野をもち、国の発展に努めようとする心情を育てる。
- ② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 日本のイメージについて話し合う。 ○現在の日本 ○江戸末期の日本	○今の日本を色で例えると何色だろうか。理由も考えよう。 ・金(オリンピックで活躍) ○江戸時代末期はどうだろう。 ・黒(黒船がきた)	○生徒の発言を肯定的に受け止め、共感的な雰囲気をつくる。 ○たくさんの意見を出させ、時代の違いを捉えさせる。	
展開	2 資料を読んで考える。 ○諸外国で学ぶ木村鉄太の思いを考える。 ○時代の変化の中で強い意志の基に『航米記』を書き続けた鉄太の思いに迫る。 3 今の世の中の状況を考え、鉄太の思いの深さに迫る。	○『航米記』にたくさんの文章と絵を残したのはなぜでしょう。 ・わかりやすく諸外国のことを伝えるため。 ○攘夷論が高まる中で、『航米記』を書き続けた鉄太はどんな思いだっただろうか。 ・間違ったことはしていない。 ・日本と外国の差は大きい。 ◎今の日本を鉄太はどんな思いで見るとだろうか。 ・とても豊かな国になってよかった。 ・これからの日本を頼む!	○『航米記』を書き残した鉄太の思いに迫る。 ○鉄太の強い意志に気づかせる。 ○鉄太の思いの強さを感じて、自分にできることを意識させる。	『航米記』の挿絵 カード ワークシート
終末	4 教師の説話を聞き、感想をまとめる。	○日本をよくするために自分がしたいことを書こう。	○日本人としての誇りをもつとともに、広い視野から物事を考えようとする態度を育てる。	

活用のポイント

<協力的な指導>

○学年部職員が資料の収集を分担して行い、全員が参考文献を読んで木村鉄太の思いに近づこうと努力をした。その上で授業内容を共に検討したことで、教材研究を深めることができた。

<時代背景を理解させる工夫>

○『航米記』の挿絵や文を使ったので、生徒が時代背景を想像しやすくなった。

<生徒同士の意見交換を活発にさせる工夫>

○生徒同士が、疑問に思ったことや意見を聞いて考え、活発に交流することができるように座席配置を工夫した。(グループ、コの字型)

特別支援学級	資料名「ぬぎすてたぞうり」	内容項目 1-(1)
--------	---------------	------------

(1) 事前の準備

- ・生徒の実態に合わせて、教育委員会や校区内の小学校から、お借りした「熊本の心」小学校1・2年版「熊本の心」と資料を借りて生徒数分を印刷して使用した。
- ・生徒の実態に合わせて挿絵を拡大印刷して説明しながら生徒と一緒に彩色し、絵カードを作成した。

(2) 本時の学習(実践事例)

① ねらい

自分の身の回りを整頓し、物を大事に扱う態度を育てる。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 身の回りの物を大切にしているか考える。	○自分の物が、見つからなくて困ったことはありませんか。 ・あります。 ・ありません	○身の回りのことを取り上げ、本時への意識を高める。	
展開	2 資料を読む。 3 自分と似ているところや違うところを振り返ってみる。 4 豪潮の気持ちを考える。	○「ぬぎすてたぞうり」をゆっくり読もう。 ○豪潮さんが自分と似ているところや違うところを探そう。 ・片付けませんね。 ・ほくは片付けます。 ○草履などを探している時、どんなことを思っ	○全員でゆっくり読む。 ○話の内容を確認しながら読み進める。 ○否定的な面ばかり気付いた場合は、自信を無くさないように配慮する。 ○「なげすてる」と「置く」を実際にやって	絵カード

	<p>○霜のひどい朝について</p> <p>○次の日の朝について</p> <p>5 自分の生活を振り返って考える。</p>	<p>たでしょう。 ・困った、そうじできない。</p> <p>○「返して下さい。」と大きな声を出した時、どんな気持ちだったでしょう。 ・なぜ、黙って使うの？ ◎本や衣を泣かせないためにどうしたらよいと思ったでしょう。</p> <p>○物を泣かせないためにはどうすればよいでしょう。</p>	<p>みて、違いに気付かせる。 ○自分の生活と比べて考えさせる。 ○同じようなことが自分にもなかったか考えさせる。</p> <p>○豪潮の思いを話し合っ て、動作化する。</p> <p>○教室や家庭においての自分の生活を振り返らせる。</p>	文字カード
終 末	6 教師の話を書く。	○きちんと片付けるといいね。どうしたら、物の片付けができるようになるだろう。	○一人一人が物を大切にできるように意欲付けをする。	

活用のポイント

<資料準備について>

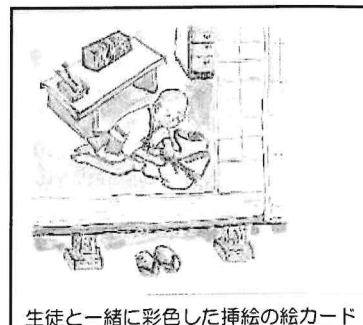
○生徒の実態に合わせて、資料の内容について生徒の理解を深めるために、事前に朝読書を活用して読む時間を確保したり、挿絵を活用して絵カードを作成し、紙芝居のようにして読み聞かせをしたりした。登場人物を確認し、あらすじを振り返らせながら読み進めた。

○時代背景を理解しやすくするために、生徒と一緒に挿絵に色を付けながら説明した。

<保護者との連携・協力について>

○小学校1・2年版を扱ったので、内容が分かりやすく「昔ばなし」のように楽しく読むことができた。

○保護者がとなりに座っていることで、設問について親子で話し合いながら考えることができた。



生徒と一緒に彩色した挿絵の絵カード

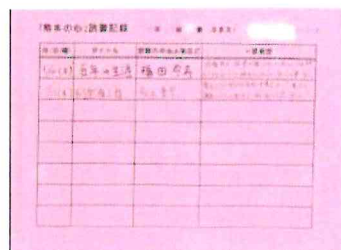
2 学校における活用（「道徳の時間」以外での活用）

（1）朝読書の時間での読書

朝読書の時間を活用して「熊本の心」の読書の時間を設定した。学校行事の都合で実施できない期間もあったが、1週間に1日の割合で実施した。道徳の時間の年間指導計画に入っていない資料から選んで指定し、指定されたページを読み終わったら他の資料を読むことにした。

読書後は感想なども簡単に記録するようにし、生徒の考えやその変容を教師も確認できるようにした。

〈朝読書での読書〉



「熊本の心」読書記録

	1年生	2年生	3年生
1月	<ul style="list-style-type: none"> 百年の生涯 名弓肥後三郎 	<ul style="list-style-type: none"> 百年の生涯 名弓肥後三郎 	<ul style="list-style-type: none"> 百年の生涯 名弓肥後三郎
2月	<ul style="list-style-type: none"> イカナゴの海 くず根ほる 	<ul style="list-style-type: none"> 神さび居るか 水島 くず根ほる 	<ul style="list-style-type: none"> くず根ほる ふるさとに文化の薫りを
3月	<ul style="list-style-type: none"> 大観峰に立つ 	<ul style="list-style-type: none"> 碑に込められた願い 	

活用のポイント

- 毎月の行事が確定した後、朝読書を実施できる日を確認して計画した。生徒が読む資料は道徳教育推進教師が指定した。指定された資料を読み終わった生徒は他の資料を読むように指導した。
- 読書後の感想を書くスペースはあまり広くとらず「一言感想」とし、朝読書以外の時間でも気軽に読んで感想をメモするように指導した。

（2）特別支援学級における読み聞かせ

特別支援学級では、朝自習の時間を活用して「熊本の心」の読み聞かせの時間を設定した。生徒の実態に配慮し、特別支援学級担任が小学校1・2年版から資料を選び、理解しやすいように工夫して読み聞かせを行った。

生徒一人一人が読書後の感想を発表して、生徒たちがお互いに聞きあった。

活用のポイント

- 挿絵を拡大印刷して彩色し、紙芝居のようにして読み聞かせをした。
- 読み聞かせを始める前に、挿絵を示しながら登場人物の確認をした。生徒の表情を確認しながらゆっくり読み進め、必要に応じて人物や場面の確認を行った。
- 特別支援学級の教室にある広いテーブルに生徒と担任が着席し、読み手と聞き手が近くなるように工夫した。

（3）「熊本の心」コーナーの設営・活用

毎朝全校生徒が通るホールに「熊本の心」コーナーをつくり、拡大印刷した資料と授業で使った写真等を掲示している。生徒をはじめ保護者や来校者にも関心をもってもらえるように、定期的に掲示物を更新している。

活用のポイント

- 「熊本の心」の資料や授業で使った写真、視聴したDVDの場面を印刷して掲示することで、掲示物を見た生徒が教室で「熊本の心」を自発的に読む姿が見られた。
- 「熊本の心」以外で道徳の時間で活用した資料等も掲示したことにより、生徒が他学年の学習内容にも関心をもつようになった。

3 家庭・地域での活用、啓発

(1) 保護者会でのお知らせ

4月はじめの保護者会で、「熊本の心」のリーフレットを配付した。「熊本の心」が改訂されたこと、新しい「熊本の心」の冊子を教室に置いていること、地域の図書館にも配置してあることなどを伝え、来校時などに目を通していただくよう呼びかけた。

また、学校便りで新しい「熊本の心」とその活用について保護者へ知らせた。

活用のポイント

<リーフレットについて>

- 年度当初の保護者会でリーフレットを配布し、道徳教育推進教師が保護者へ「熊本の心」活用の意義について説明した。「熊本の心」を通して先人たちの生き方や熊本県の伝統や文化に触れることで、本校の研究主題である「夢がも、夢が語れる生徒の育成」につながることを伝えた。

(2) 公開授業

学年ごとに資料を決めて教材研究を行い、公開授業を実施した。1年生は「万田坑と共に」、2年生は「俳優 笠智衆」、3年生は「新しい時代のために」、特別支援学級では「ぬぎすてたぞうり」（小学校1・2年版）を実施した。

資料の本文を「熊本の心」CDから拡大印刷（B1サイズ）し、各学年の廊下に掲示した。参観された保護者や地域の方々は授業の合間や授業後に読まれていた。生徒がもっている冊子をのぞき込んで一緒に読まれている方もいらっしまった。

活用のポイント

<資料の提示について>

- 保護者や地域の方々にも資料の内容を知っていただくため、資料提示の工夫をした。1年生では「熊本の心」DVDを大型ディスプレイで提示した。2年生では範読したものを録音して活用した。特別支援学級では生徒とともに作成した紙芝居を使って読み聞かせをした。
- 本文を拡大印刷したものを各学年の廊下に掲示することで、参観された方は授業の合間や授業後に自分のペースで読むことができた。

<授業の形態について>

- 意見を発表する場面では、まず生活班によるグループをつくったので、生徒が自分の考えを述べやすくなり、生徒一人一人の考えが深まった。また、はじめからコの字型の座席配置で授業を実施した学級では、生徒同士の意見交換がしやすくなり自主的な発言が多くなった。

<小・中の連携について>

- 特別支援学級では生徒の実態に配慮し、「熊本の心」小学校1・2年版を活用した。校区内の小学校の協力で、事前に教材研究のために「熊本の心」の教師用指導資料やCDなどをお借りし、当日は生徒と保護者が読むための冊子も借りることができ、公開授業の成果を高めることができた。

1 学校における活用（「道徳の時間」での活用）

小2年	資料名「光るえんがわ」	内容項目 1－（2）
-----	-------------	------------

(1) 事前の準備

- ・学習前に北里柴三郎の伝記を紹介し、教室で自由に読めるようにしておき、資料に関心がもてるようにする。
- ・「くまものこころ」に掲載されたさし絵や北里柴三郎記念館取材した時の写真を紙芝居形式にして、話を捉えやすくする。また、BGMを使って資料提示を行う。
- ・心のハート図を用意し、(ハートの位置を場面ごとに児童に尋ね、上下させる。)柴三郎の心情の高まりを捉えやすくする。
- ・中心発問場面で吹き出しに書き込めるワークシートを用意し、一人一人に考えを整理させる。
- ・自覚化の場面では、担任からの手紙(児童一人一人の頑張りを書いたもの)と頑張っている場面の写真スライドを用意しておき、努力している自分に気付くことができるようにする。

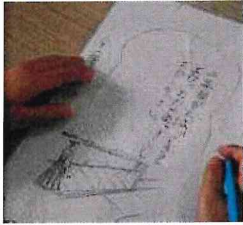

(2) 本時の学習(実践事例)

① ねらい

資料を通して、柴三郎が縁側を光るまで拭き続けた気持ちに共感させ、自分がやらなければならないことは、苦しいことがあっても頑張るやりとげようとする態度を育てる。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 本時の課題について知る。	【総合単元的テーマ】 みらいの自分にプレゼント ○今日は、どんなハートがプレゼントできるでしょう。	・「続けて頑張ること」の学習に関心をもたせる。	総合単元表
展開	2 資料「光るえんがわ」を聞いて、話し合う。 (1) 資料から感想を出し、学習の見通しをもつ。 (2) 柴三郎の気持ちについて考える。	○「光るえんがわ」を聞いて心に残ったことはどんなことですか。 ・光るまで縁側をふいたのすごいと思った。 ○おばさんからもう一度拭くように言われた柴三郎の気持ちを考えましょう。 ・遊びに行きたいのに、いやだな。 *ハートは今、黒板のどのあたりでしょう。	・「めあてをもって頑張ること」について自分の生活と資料から課題意識をもたせる。 ・場面に合わせて柴三郎の気持ちの変化に寄り添わせる。 ・きついことをするのは、だれでもいやだと感じることに気付かせる。	挿絵(紙芝居形式) BGM 資料 県北略地図 心のハート図

	  <p>3 自分の「続けて頑張る心」を振り返る。</p>	<p>○縁側がだんだん光り始めた時、どんなことを思いながら拭いていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光ってきたからうれしい。 ・もっと光らせたい。 <p>*ハートは今、黒板のどのあたりでしょう。</p> <p>◎光る縁側を眺める柴三郎の心の声を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きつかったけど、頑張ってたよ。 ・続けることができてうれしいな。 <p>*ハートは今、黒板のどのあたりでしょう。</p> <p>○この頑張りは、だれかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～くんがサッカーを一生懸命に頑張っている。 <p>○柴三郎のように「ねばり強く頑張ってたこと」を友だちと振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の練習は、めんどうだけど続けているよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日続けると成果が表れて、さらに励みになることに気付かせる。 ・高まってきた心に気付かせる。 ・めあてをもってやり遂げたことの満足感に気付かせる。 ・努力を続けて結果を実らせた主人公の姿から、価値に迫る。 ・日常生活の中から子どもたちが頑張っている姿を紹介する。 ・自分たちの「ねばり強く頑張る心」を実感させる。 	<p>心のハート図 吹き出しワークシート</p> <p>心のハート図 頑張りクイズ（紹介）</p>
<p>終末</p>	<p>4 担任からの手紙を読む。</p>	<p>○あなたの頑張りを写真や手紙でお知らせします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝わっていたんだな。これからも続けるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが頑張っていることを手紙に書き、意欲付けとする。 	<p>スライドショー 手紙</p>

活用のポイント

〈総合単元の取組〉

○総合単元的な道徳学習計画の中に、みんなで頑張ることができる行事（体験）を計画した。また、国語「友だちのこと知りたいな」の学習の中に友だちの頑張りに気付く活動を取り入れたことで、児童が道徳的価値を体験と重ねて学習していった。（特に、本時では、柴三郎の気持ちに児童が自分の体験から感じたことを重ねて発表できた。）また、自分の頑張りに気付くことができた。

〈本時の取組〉

○さし絵を中心に読み聞かせながら資料を提示したので、場面と柴三郎の心情を捉えやすかった。また、心のハート図を場面ごとに上下させることで、弱い心やその後の心情の高まりについて、みんなで考えていくことができた。

○低学年の児童は、熊本県全体を自分のふるさとと感じるのは難しいが、簡単な略地図などを掲示しておいたことで、郷土のできごととして捉えやすくなった。

○担任が、一人一人の頑張りの手紙を書いておくことで、自分もできているという自覚と今後の学校生活への意欲をもつことができた。

小5年	資料名「たった一基のほう納灯ろう」	内容項目 1-(2)
-----	-------------------	------------

(1) 事前の準備

- ・事前に戦時中の写真を教室に掲示しておき、児童の場面把握に役立てる。
- ・図工の単元と関連付け、紙灯籠づくりを体験し、灯籠を作る難しさや作り上げた時の喜びを体験する。
- ・児童が日常生活や行事の中で頑張っている姿を撮影した写真を集めておく。また、その写真をスライドショーに編集しておく。
- ・実際に松本清記氏のご家族に聞き取りを行いながら資料の分析を行い、授業づくりに生かす。

(2) 本時の学習（実践事例）

① ねらい

資料を通して、清記の灯籠づくりへの熱い思いや信念に共感させ、より高い目標に向かって困難に負けずに努力していこうとする心情を育てる。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 本時の課題について知る。	【総合単元的テーマ】 下級生の手本となる高学年になろう。 ○下級生のお手本になれていますか。	・事前のアンケートから児童の実態を把握し、自分たちの課題をつかませる。	・事前アンケート ・写真
展開	2 資料「たった一基のほう納灯ろう」を聞いて話し合う。 (1) 資料から感想を発表し、学習の見通しをもつ。 (2) 清記の気持ちを考える。	○少年の頃の清記さんってどんなところがすごいと思いますか。 ・あきらめない。 ・見て覚えることができる。 ○初めて金灯籠を作り上げた清記は何と言っただろう。 ・やっと作り上げたぞ。 ・自分一人で作ったぞ。 ○道具をもって避難した清記は何を考えていたのかな。 ・また、灯籠を作ってやる。 ・道具がなければ作れない。 ※命が危ない時、みんなだったら道具を持って行きますか。 ・行かない。 ※なぜ持って行ったと思いますか。 ・命と同じくらい道具が大切 ・どんなに苦しくても灯籠を作りたいから。	・資料の読み聞かせをしながら、キーワードを提示する。 ・実際の金灯籠を見せ、清記の気持ちに共感させる。 ・戦時中の様子を写真で思い起こし、心情を考えさせる。 ・揺さぶり発問で清記の灯籠作りにかかる思いに気付かせる。	挿絵 キーワード 和紙で作った金灯籠の実物

	3 自分の生活を振り返らせる。	<p>◎戦争後、祭りの様子を見ている時、清記さんはどんな気持ちだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争で苦しかったけれど、諦めずに本当によかった。 <p>○諦めずに頑張ったことはないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きついけれども、頑張ってみみんなのために試合でよい結果を出したい。 ・いつもあきらめていたけれど清記さんのように強い気持ちをもって勉強したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使い、考えを整理させた上で、発表させる。 ・意見が出ない場合は、友だちから頑張りを発表してもらい、自分の頑張りに気付かせる。 	ワークシート ワークシート
終末	4 教師の説話を聞く。	<p>○みんなの頑張りを見せます。</p> <p>○先生の目標を話します。今も諦めずに努力しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分の頑張りを入りこませる。 	BGM スライド ショー

活用のポイント

- 〈総合単元の取組〉
- 総合単元的な道徳学習を計画し、学習したことを日常生活や各教科等と関連させたことで本時の価値への理解が深まり、日常生活で掃除や当番をがんばろうとする姿が見られるようになってきた。
- 〈本時の取組〉
- 価値に関する事前アンケートをとっておき課題把握に生かすことができた。また、自覚化の部分でアンケートに返り、自分を振り返る活動につながった。
 - 金灯籠の実物を見せることで、児童にイメージがわき、灯籠を作った時の清記の心情を素直に表現できた。
 - 写真資料（灯籠制作道具）については、灯籠民芸館等への取材を行い、活用することができた。
 - 挿絵やキーワード・写真を使った資料の提示の仕方の工夫により、場面を分かりやすくした。また、主人公の心情をより考えることができるように、心をこめた教師の肉声による音読を行った。
 - 戦時中の様子については、事前に言葉や写真などから様子をつかませておいたことで、道具をもって逃げる清記の心情を考えることができるようにした。あわせて、「みんなだったら、道具をもって逃げる？」というゆさぶりをかけることで、清記の灯籠を作り上げるという強い意志に気付かせることができた。
 - 松本清記氏のご家族の方に授業を参観していただき、授業後に感想を子どもたちへ返していただいた。そのことで、子どもたちの「粘り強く頑張る」意欲につながった。
 - 終末で、児童の頑張りを入りこませることで、今後の実践意欲が高まった。

2 学校における活用（「道徳の時間」以外での活用）

（1）全校集会での講話

毎月1回の全校集会時に、「熊本の心」を活用し、資料の読み聞かせや人物紹介等を行った。活用する資料については、児童の実態や興味関心を考慮して選定している。

活用のポイント

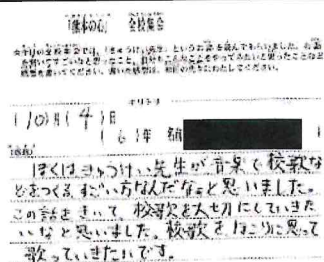
<資料提示の工夫>

○資料「きゅうけい先生」（低学年用「くまもとのこころ」）を活用した際に、犬童球溪の代表的な歌（「旅愁」）を音楽科担当教師が児童に歌いながら紹介した。

○児童に提示する挿絵については、拡大して提示した。また、人物紹介にかかわるポイントについては、カードで提示した。

<意見交流の場の工夫>

○児童同士で感想を交流する時間を設けた。異学年の児童の意見を聞き合うことで、より深い理解へとつながった。



集会後の児童の感想

（2）「熊本の心」についての人材・郷土コーナー

「熊本の心」の資料から人物や郷土の文化財等を抜粋し、校内に掲示している。子どもたちが、郷土に目を向け、興味関心をもつことができるようにキャラクター等も利用して紹介した。子どもたちは、道徳学習と関連させながら掲示物を読む姿が見られるようになった。



概要についての掲示



実践の足跡の掲示

活用のポイント

<道徳の授業との関連>

○掲示物については、授業に使う事前学習資料としても活用できるようにした。また、授業時に深めた道徳的価値についても、学習の足跡として掲示した。

<掲示方法の工夫>

○児童の目にいつでも触れるように、廊下やワークルーム等に掲示した。また、どの学年の児童も興味をもって読めるように、表記の仕方も工夫した。

3 家庭・地域での活用, 啓発

(1) 「テレビ・ゲームコントロールの日」での取組

米野岳中学校区では、毎週水曜日を「テレビ・ゲームコントロールの日」と決め、家庭の協力のもと実践を行っている。その実践にあわせて、「熊本の心」を家庭に持ち帰り、読み聞かせや親子読書の取組を行っている。

活用のポイント

<資料配付の工夫>

○家庭での読書を推進する取組に「熊本の心」の活用を重ねた。毎週水曜日に低学年、中学年、高学年用の資料を印刷し、家庭に配付した。また、簡単に資料についての説明と感想欄をつけたブリントも配付した。

<家族団らんの場>

○一つの資料を親子で読むことで、地域への愛着を深めるとともに、先人の生き方について親子で語り合える機会とした。

(2) 読み聞かせボランティアでの活用

米田小学校では、夏休み期間中に高学年児童が保育園訪問を行い、読み聞かせボランティアを行っている。読み聞かせの中で、「熊本の心」の低学年部の資料を使った取組を行った。保育園の子どもたちも、この読み聞かせを喜んで聞いてくれた。

活用のポイント

<表現力の育成>

○地域に残る話を園児に伝えようと練習を行ったことで、事前に紙芝居を用意したり、役割分担を決めて発表したりするなど、学習経験を生かした表現を行った。

<保小連携の取組>

○小学校での道徳の時間の学習に関する内容について保育士にも理解していただき、園での活動にも生かしてもらっている。

(3) 学校便りでの「熊本の心」の実践紹介（地域啓発）

「学校便り（稲穂）」で、「熊本の心」の地域啓発を行っている。特に、「熊本の心」が編集された意図や地域での活用方法も紹介している。また、学校での校内研修を通じた「熊本の心」活用授業実践と子どもたちの様子も知らせている。

活用のポイント

<地域への啓発>

○家庭で読んでいただくことによって、「熊本の心」について地域への周知がなされ、学校での道徳の授業の進め方について、関心をもっていただくきっかけとなった。

1 学校における活用（「道徳の時間」での活用）

中3年	資料名「熊本スピリッツ」	内容項目 4－（9）
-----	--------------	------------

（1）事前の準備

- ・ラフカディオ・ハーンの生き方に迫るため、導入時に使用する顔写真を準備する。

（2）本時の学習（実践事例）

① ねらい

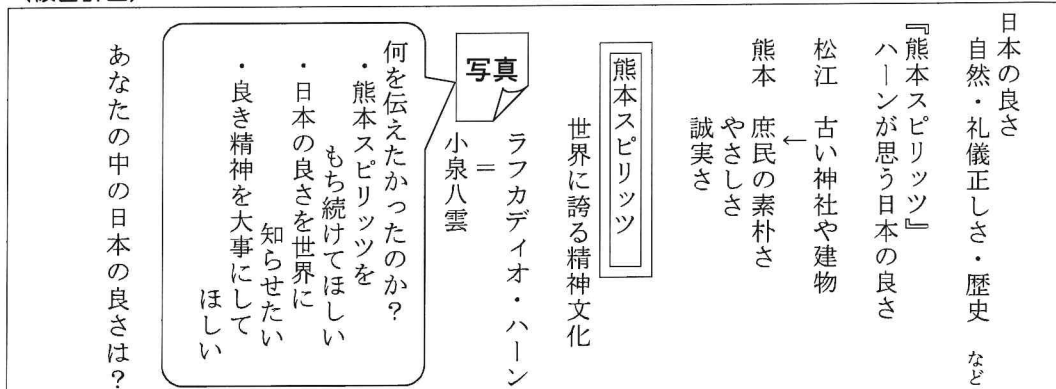
日本人としての自覚をもって国を愛し、日本固有の優れた伝統や文化についての理解を深め、その価値を継承しようとする態度を育てる。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 日本の良さを発表する。	○日本の良さはどのようなところでしょうか。 ・親切である。 ・四季がある。 ・治安がよい。 ・礼儀正しい。 ・長い歴史がある。	○日本の良さについて考えさせ、国を思う気持ちに関心を向けさせる。	ハーンの写真
展開	2 資料を読む。 3 ハーンの日本への思いを確認する。 4 自分を振り返る。	○ハーンは、日本のどのような所に良さを感じていたのでしょうか。 ・古い日本の面影 ・庶民の素朴さや正直さ ・礼儀がある所 ・弱いものを助ける所 ・誰に対しても親切で誠実な所 ◎ハーンは、講演や書籍を通して、私たち日本人に何を伝えたかったのだと思いますか。 ・熊本や日本人の精神的な良さに気付いてほしい。 ・大事にしてほしい。 ・この気持ちをもち続け日本を発展させてほしい。 ○自分を振り返って、日本の良さを感ずることはありませんか。 ・バス停できちんと並んだ。 ・もったいないと思うことが多く、ものを大切にしている。 ・買い物袋を持って行き、レジ袋をもらわないようにしている。 ・おばあさんに席を譲った。	○ハーンが日本のどのような点に良さを感じていったのかを考えながら、資料を読ませる。 ○物質的なものから、精神的なものに移ったことをつかませる。 ○前段の講演会での語りかけや「知られぬ日本の面影」というタイトルに着目させる。 ○自分の中にもある、日本人の良さに気付かせるよう発表させていく。	板書カード ワークシート
終末	5 本時のまとめをする。	○教師の説話	○本時の中で生徒が発表した言葉を引用してまとめる。	

活用のポイント

〈板書計画〉



〈「熊本の心」の活用の効果〉

- 熊本にゆかりのあるハーンを紹介することで、郷土を見直すよい機会とすることができた。また、ハーンが存在を知ることにより、郷土熊本を誇りに思う生徒の育成につなげることができた。
- ハーンが伝えたかった日本の心（熊本スピリッツ）を考えることを中心発問とすることで、より深く主題に迫ることができた。
- 郷土を素材とした資料には、これまで育まれてきた伝統や文化を意識し、そこに住む喜びを感じさせる強さがある。生徒の感想にも郷土を創りあげてきた人々への感謝や、先人や高齢者への感謝の気持ちを記したものが数多く見られた。
- 実在した地元の人物であるために、より身近に自分の姿と重ねて考えることができ、生徒たちも熊本スピリッツを意識して生活したいという感想が聞かれた。

中3年	資料名「異国の地で生涯をささぐ」	内容項目 4-(5)
-----	------------------	------------

(1) 事前の準備

- ・ハンナ・リデルの生き方に迫るため、導入時に使用する顔写真を準備する。
- ・生徒への感謝の思いを紹介した新聞の投書記事を準備する。

(2) 本時の学習（実践事例）

① ねらい

リデルの生き方に触れて、自分のできることを自覚し、公共の福祉のために尽くそうとする意欲を高める。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 ハンセン病患者の人権について学習したことを振り返る。	○ハンセン病について、どんなことを知っていますか。 ・誤解による差別問題があった。 ・患者さんを隔離していた。	○患者に対する偏見や差別の状況をおさえる。	
展開	2 資料を読む。 3 生涯をハンセン病患者救済にあてたリデルの思いを確認する。 4 自分の生活を振り返る。	○宣教師を辞め、熊本に戻る決断をしたリデルはどんな思いだったでしょうか。 ・辞めて大丈夫か不安だ。 ・患者を放っておけない。 ◎困難を乗り越え、生涯ハンセン病患者救済のために働くリデルの「やりがい」は何でしょうか。 ・患者の笑顔 ・人の役に立つ喜び ・人に感謝されること ・信念を貫いた達成感、充実感 ・仲間が増えていくこと ○あなたは、誰かの役に立ち、喜んでもらうために何かを頑張った経験がありますか。また、その時の気持ちはどうでしたか。 ・高齢者世帯サポート事業 ・ボランティア活動 ・役に立てて嬉しい気持ち ・やり遂げた充実感	○患者と出会い、心を痛めたリデルの気持ちを考えさせる。 ○葛藤するリデルの胸中を想像させる。 ○リデルの心を支え続けたものとして、奉仕の精神や福祉に貢献する喜びがあることに気付かせる。 ○リデルの生き方から学んだ事を基に自分を振り返る。	リデルの写真 板書カード 写真ワークシート
終末	5 本時のまとめをする。	○教師の説話（地域の方からの新聞の投書記事を読む。）	○地域の方の思いを知ることで、公共の福祉のために尽くそうとする意欲を高める。	

活用のポイント

〈板書計画〉

<p>写真</p> <ul style="list-style-type: none">・ 患者の笑顔・ 人の役に立つ喜び・ 仲間が増えていく	<p>リデルの「やりがい」</p> <ul style="list-style-type: none">・ 辞めて大丈夫か不安・ 患者を放っておけない <p>○ 困難を乗り越え、患者救済に尽くす</p>	<p>宣教師を辞める時の気持ち</p> <p>★ 回春病院開設 明治二十八年 ★ 教会が帰国を命じる</p>	<p>ハンセン病患者と出会って</p> <ul style="list-style-type: none">・ なぜ境内で暮らしているか・ 周りの人は助けないのか	<p>写真</p> <p>ハンナ・リデル 英国ロンドン生まれ 三十五才で夢叶って 熊本へ</p>	<p>『異国の地で生涯をささぐ』</p> <p>ハンセン病について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 治らず遺伝すると誤解○ 偏見や差別があった
--	--	--	--	---	--

〈新聞記事の活用と効果〉

下は、「4 自分の生活を振り返る」場面で活用した新聞記事で、高齢者サポート事業で訪問を受けた地域の方が投書されたものである。当初はハンナ・リデルさんの生き方が、自分たちとかけ離れていると感じていた生徒もこの記事を読んで自分に対する見方が変わり、「自分たちもできるんだ」「もっとリデルさんのように人のために動ける人になりたい」など、高い価値にまで高めることができた。

うれしいことがありました。近くの菊池南中3年生9人が、我が家に奉仕活動に来てくれました。私は一人暮らしが長く、最近の子どもさんのことが分からないので、民生委員の方からお話があったときは不安だったんですが、みなさんが素直でさわやかで感心しました。2時間ぐらいだったでしょうか、男子は草取り、女子は窓拭きをしていただきました。私の戦争体験の話や、お年寄りやお父さん、お母さんにきちんと挨拶するようにお願いしたこと、よく聞いてくれました。受験で大変な時期なのに、とってもありがたかったです。

菊池市、主婦、87【熊日新聞より抜粋】

〈「熊本の心」の活用の効果〉

- ハンナ・リデルの行動を通して、熊本の先人に、奉仕の精神を具体的な行動として実践した人物が存在したことを知ることができ、郷土を愛する心を育てることができた。
- ハンセン病の問題は、熊本県人権教育・啓発基本計画に示された人権課題の一つである。人権教育推進の視点からも、活用に大きな成果があった。

2 学校における活用（「道徳の時間」以外での活用）

(1) 朝読書「熊本の心」黙読の日「くまもくの日」

目的：授業以外で、「熊本の心」を活用する場を設けることで、生徒たちにより多くの熊本の偉人や地域の伝統文化にふれさせ、身近なものに感じさせるとともに、親しみをもたせる。

日時：毎週木曜日の朝読書の時間（8：20～8：40）

方法：毎回、最低一つの資料を読む。

読む順序は自由。

生活ノートの「読書の記録」に記入する。

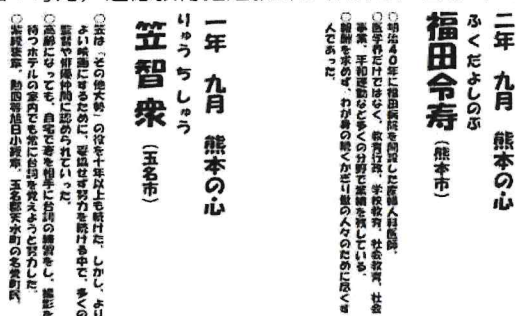
活用のポイント

- 木曜日の朝、全校放送で「くまもくの日」であることを呼びかけ、全校で徹底させる。
- 担任も「熊本の心」を読書し、時間が来たら生活ノートに記入するよう促す。
- 記入した後、担任が自分の読んだ資料の感想を短く話し、読み方の示唆を与える。

(2) 「熊本の心」コーナーの設置

目的：毎月、「熊本の心」の偉人を簡潔にまとめて紹介し、大まかに捉えて「熊本の心」を取り扱う事前の情報を与えたり、授業後の振り返りの機会とする。

方法：毎月、道徳教育推進教師が作成し、各学年の道徳担当者が学年掲示板に掲示する。



「熊本の心」コーナーの紹介例



「熊本の心」コーナー

活用のポイント

- 予め選定した各学年10の資料を、毎月1資料ずつ掲示していく。
- 授業で扱った人物は早めに掲示するようにする。
- 掲示物作成は、顔写真と名前を大きく書き、人物紹介はできるだけ簡潔にまとめる。
- ラミネート加工し、継続して使えるように作成する。

3 家庭・地域での活用, 啓発

(1) 授業参観を兼ねた研究発表会での全クラス道徳授業の実施

「熊本の心」を使った道徳の授業を保護者に公開することで、実際どのように活用しているのかわかってもらう良い機会となった。

(2) 学級通信等を使った家庭への紹介

今回の研究発表会はもとより、道徳の授業の感想を学級通信等で紹介することで、子どもたちの思いや道徳的価値の変容、学校としての取組を知っていただいた。

(3) 生徒と保護者参加の肥後の民話講演会

肥後の歴史物語と民話の会「語り座」代表の寿咲亜似さんに、「清正公の心に触れる物語」と題して講話をしていただいた。加藤清正と菊池との関わりや、清正公にまつわる民話を全校生徒と共に保護者も一緒に聞いた。

活用のポイント

- 「熊本の心」を活用した道徳の時間で生徒たちが活発に手を挙げ、自分の意見を述べる姿は、保護者へのよき啓発の場となると同時に生徒の自己有用感を高めるよい機会となった。
- 学級通信では生徒の感想だけでなく保護者の感想も掲載することで、保護者の関心や意識を高める機会となった。

4年	資料名「道しるべ」	内容項目 2-(4)
----	-----------	------------

(1) 事前の準備

- ・社会科で「住みよいくらしをつくる」や「きょうどを開く」を学習したおりの、住みよいくらしを支えるために働いている人々や通潤橋を作った布田保之介のことを取り上げ、くらしを支えてくれる人々がいることをおさえた。
- ・社会科で児童に自分たちのくらしを支えてくれる人について調べさせ、作文を書かせた。
- ・甲斐有雄のことを地域の方に聞き、地域にある甲斐有雄が作った道しるべについて取材した。

(2) 本時の学習（実践事例）

① ねらい

生活を支えてくれる人々や高齢者に対し、尊敬・感謝の気持ちをもつ。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 波野にも人々のくらしを支えるために作られた道しるべがあることを知る。	○自分たちのくらしを支えているのはどのような人々でしたか。 ○これは、波野にある甲斐有雄さんの作った道しるべです。	○家族だけでなく、児童に関わるさまざまな職業に携わる人々のことを想起させる。 ○人々のくらしを支えるために作られた道しるべが自分たちの身近にあることをおさえる。	甲斐有雄の写真 道しるべの実物
展開	2 資料「道しるべ」を読んで話し合う。 ○道しるべに込められた有雄の願い ○記念碑に込められた村人の思い	○有雄はなぜ道しるべを作ったのでしょうか。 ・道に迷う人がいないように ・安心して旅をしてほしい。 ・みんなが分かるように ○村人はなぜ記念碑を作ったのでしょうか。 ・ありがとう。 ・有雄さんのことをわすれないうちにしよう。 ・ずっと伝えたい。	○当時の時代背景、交通状況、阿蘇の自然の厳しさをおさえながら、問題場面を明らかにする。 ○人々の安らぎを願っていたことに気付かせるため道しるべに彫られた短歌を紹介する。 ○まず、児童の村人への気持ちを考えさせ、有雄への感謝の念を後世に伝えたい村人の気持ち	写真資料 短歌 記念碑の碑文

	3 自分の生活を振り返る。	○村人のように感謝の気持ちを伝えたい人はいますか。その人に手紙を書きましょう。	ちに気付かせるようにする。 ○地域で地道に活動されている方々や地域の先人、祖父母の仕事等へも目を向けさせる。	事前に学習した写真等便箋
終末	4 児童の作文発表を聞く。	○地域の先人や公共のために尽くし生活を支えている人たちのことを書いた作文を発表してもらいます。	○生活を支えてくれる人や高齢者に対する尊敬・感謝する気持ちを高める。	児童の作文

活用のポイント

〈総合単元的な道徳学習の中での位置付け〉

- 3, 4年生の児童は、自分が直接的にお世話になっている人のことだけでなく、間接的に支えてくれる人に関しても十分理解できるようになっている。高齢の方を含めた先人に対する尊敬・感謝の念を育むのに適したこの時期に、道徳の時間を要とした総合単元的な道徳学習の単元を構想し、教育活動全体を通じて尊敬・感謝の念を育てていくことをねらった。
- 総合単元の構想の中で、本時は一学期の総合的な学習の時間「田植え」や社会「住みよいくらしをつくる」、帰りの会の心のノートを使った「みんなに支えられている」などで学習したことを補充、深化、統合し、二学期の総合的な学習の時間「明治井路」、社会「きょうどを開く」へとつなぐ学習として位置付けた。児童は、一学期の学習で自分たちの暮らしを支えてくれている人々について学んできた。自分たちの暮らしを支えてくれている人々の思いを感じ、それらの人々に対する感謝の気持ちをもつことができた。しかし、それは児童個人の心情であり、学級全体で共有化されたものではない。そこで、本時の学習において、その児童個人の思いや気持ちを資料を通して話し合うことにより、より高い価値観に触れさせるようにした。

〈導入の工夫〉

- 導入時に、社会科で学習した自分たちの暮らしを支えている人たちのことを想起させたり、波野地域にある甲斐有雄の道しるべの実物を取り上げたりしながら、家族以外にも自分たちの暮らしを支えている人がいることをおさえ価値への方向付けを行った。

〈展開前段の工夫〉

- 展開前段では、資料を通して、道しるべに込められた有雄の願いを理解させるとともに、記念碑を建立した村人の立場から有雄への気持ちを考えさせることによって、尊敬・感謝の気持ちを高めていった。その際、当時の交通状況や時代背景、阿蘇の気候などについても写真資料を提示し、波野地域の様子と関連させながらおさえた。

〈展開後段の工夫〉

- 展開後段では、「村人と同じように尊敬・感謝の気持ちを伝えたい人はいないか。」という発問をし、児童の暮らしを振り返らせながら手紙を書かせることにより価値の自覚を促した。

〈終末の工夫〉

- 終末では、社会科で書かせた作文を発表することで、身近で地道に活動されている人々や地域の先人、祖父母等これまで気付かなかった方々への感謝の気持ちをもてるようにした。

〈授業後の活動へとつなぐ工夫〉

- 授業後、甲斐有雄と同じように地域の人々の暮らしを支えた先人はいないか教師が取材を行った。そして、総合的な学習の時間に、波野小学校校区にある「明治井路」という用水路を作った先人について取り上げて学習を行った。児童は実際に現地に行き、用水路を見学したり、地域の方に質問したりと意欲的に学習した。

2 学校における活用（「道徳の時間」以外での活用）

(1) 校内掲示の整備

児童玄関から続く廊下壁面には、「道徳コーナー」を設置し、「熊本の心」を使って行った各学級での授業の紹介や「熊本の心」に掲載されている資料の掲示を行った。



各学級での授業の様子の紹介

「めぐいにゃあどんときつね」の資料紹介と吹き出しの掲示

活用のポイント

〈語りかけのある掲示の工夫〉

- 道徳コーナーでは、各学級の授業で考えたことや感想を紹介したり、授業では取り扱わない資料について紹介したり、その資料について児童の自発的な考えを促すような語りかけのある掲示を工夫した。

(2) 「こころ集会」の実施

「熊本の心」の授業以外での効果的な活用と道徳の授業で学んだことを振り返ったり深めたりすることをねらい、全校児童での「こころ集会」を行った。初めての試みということもあり、「くまもこのこころ」(1・2年生)から校内掲示でも使用した「めぐいにゃあどんときつね」の話を基に集会を行った。

活用のポイント

〈全校集会等での資料選択の視点〉

- 資料は、各学年の年間計画に入っていないもので、1・2年生用資料で「人ときつねの心温まる民話」を選定した。話も短く、分かりやすいもので、全ての学年の児童が「親切」について考えることができた。

〈全校児童が考えやすい発問〉

- はじめに全員でDVDを視聴し、「めぐいにゃあどんがきつねの子どもを助けたのはどうしてか」について意見交換をした。全校での集会ということもあってか、初めは戸惑った様子も見られたが、高学年を中心に何名かの児童が自分の考えを発表することができた。

〈体験と心をつなぐ〉

- 全校集会の中で、友だちや自分よりも若い人に親切にすることを考えることで、親切にすることの大切さや親切にした後の心地よさを共感することができた。この集会で心に留めたことを、縦割り班活動等の時間で生かすことが期待できる。

3 家庭・地域での活用, 啓発

(1) 「道徳の時間」の授業参観とPTA全体会での「熊本の心」のDVD視聴

活用のポイント

〈「道徳の時間」の授業参観〉

○「熊本の心」や道徳の時間における学習の様子などを保護者に知ってもらうため、12月の授業参観日は、全学年で「道徳の時間」の授業を実施した。事前に授業の見所をチラシで配布し、保護者や地域の方を案内した。

〈校長講話と保護者向けDVD視聴〉

○授業参観日のPTA全体会では、校長より「熊本の心」について紹介する時間を取り、保護者に阿蘇の行事を基に作成された「火たきのしごと」のDVDを視聴してもらった。保護者からは、「とてもよい資料だ。子どもと一緒に読みたい。」「近くのことなのにどのように行われている行事か知らなかった。火焚き神事が知れたのでよかった。」「子どもたちにもいろいろな地域の話や学習する中で、道徳性を身に付けてほしい。」「授業参観で子どもたちの様子を見ながら、自分たちも勉強になった。」などの感想が聞かれた。授業公開の際に、「熊本の心」の内容を伝える機会を位置付けることで、家庭や地域での道徳教育についての理解を深め、児童の道徳的実践意欲の高まりを支えることができた。

(2) 地域教材との関連

3・4年資料「道しるべ」の学習と関連して、「総合的な学習の時間」で地域の農業用水の不足を解消するため作られた「明治井路」について調べ学習をした。郷土の先人のすばらしい知恵と努力と行動力に感動し、先人に感謝した子どもたちは、このことを「劇」にして学習発表会で発表した。

活用のポイント

〈学習発表会で地域の方に啓発する取組〉

○4年生では、地域に残された甲斐有雄さんの道しるべを実際に見て、地域に残るすばらしい財産を掘り起こした。子どもたちは、調べたことを学習発表会で劇にして保護者や地域の方に見ていただいたことで郷土に対する誇りを高めた。また、地域の方へ郷土の先人のすばらしさを啓発することができた。

小4年	資料名「布田保之助の心」	内容項目 4-(2)
-----	--------------	------------

- (1) 事前の準備
- ・社会科「きょうどをひらく」を中心に、通潤橋・布田保之助について学習する。
 - ・通潤橋・円形分水・資料館を見学する。
- (2) 本時の学習（実践事例）
- ① ねらい
- 働くことが自分のためだけでなく、人のためになっていることに気付き、人々の役に立とうとする心情や態度を育てる。
- ② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 布田保之助について知っていることを出し合う。	○布田保之助さんはどんな人だったか。 ・通潤橋を造った人 ・父や村人のことを思った人 ・父の思いを引き継いだ人	・社会科で学習したことも含め、自由に出させる。	布田保之助の写真
展開	2 資料を聞き話し合う。 ○資料を聞き、保之助のことで新たに知ったことを発表する。 ○石橋造りを全うした保之助の心を考える。 ○「働く」についての事前アンケートを見て考える。 3 自分の仕事を見つめる。	(気付く発問) ○保之助のすごいところはどんなところだろう。 ・1年8か月もがんばった。 ・工夫した。 ・あきらめなかった。 (テーマ発問) ○保之助はどうして失敗を繰り返しながら1年8か月も働き続けたのだろう。 ・村の人を助けたい。 ・何とかして水を通したい。 ・未来の生活をよくしたい。 ・村の人を喜ばせたい。 (高める発問) ○今日の学習で新しく発見した「働く」とはどんなことだろう。 ・人のため ・達成感 ・やりがい ・協力 ・心を合わせて作り上げる ・思いやりの心 (自分を見つめる発問) ○保之助のようにみんなのために働いたことはないか。 ・係の仕事→楽しかった。 ・家の手伝い→喜んでくれた	・初めて知ったことや感想を出し合い、児童の思考の流れをつかむ。 ・あきらめずに仕事をやり遂げたことや白糸台地の人々のために働いた保之助の気持ちを考える。 ・学習前のウェビングに新しく気付いた価値を書き加えていく。 ・自分の仕事を思い出し、その時の気持ちを振り返る。	挿絵カード 学習シート 学習シート
終末	4 一年生担任の話聞く。 (説話例)	○みんなも保之助さんのような心をもっていたんだよ。1年生の先生の話聞いてみよう。	・草取りが自分たちのためだけでなく人のためにもなっていたことに気付かせる。	

先日、1年生の畑を見てみると、草がたくさん生えていました。このままでは、大豆ができるか心配になっていました。草取りをしないといけないと思っていました。次の日、草がありません。4年生が草取りをしてくれたことを知りました。1年生と畑に行くと、4年生が草取りをしてくれたことを伝えました。1年生から、4年生にありがとうと伝えてきてと言われました。みなさん、本当にありがとう。

活用のポイント

〈「働く」をキーワードにした授業展開〉

○本資料では、「働く」をキーワードにして授業展開を行った。事前に、各班で「働く」についてウェビングを行った。このキーワードを基に、児童の思考の流れを重視した授業展開を考えた。発問等もこのウェビングを考慮して、工夫した。

〈既習学習を生かした導入の工夫〉

○社会科の「郷土を開く」の学習を生かした授業を展開した。布田保之助さんについて学習したことや一日見学旅行で体験したことを思い出し、本時の学習の方向付けを行った。この導入で、個々の学習の違いを生かし、授業展開につながった。

〈テーマ発問で展開する発問構成〉

○資料を活用する場面では、従来の場面発問ではなく、資料の主題やテーマそのものにかかわって追求する「テーマ発問」で行った。資料場面での発問を「気付く発問」、「テーマ発問」、「高める発問」の3つの発問構成で授業を展開した。

○「気付く発問」では、資料から新たに気付いた布田保之助さんについて発表する発問を行い、児童が資料に出会って、感じたことを中心に授業を展開した。児童が出した意見を「1年8か月間も働いた」というキーワードでまとめ、テーマ発問につなぐことができた。

○テーマ発問では、本資料のテーマである「働く」ことを追求するために「保之助は、どうして失敗を繰り返しながら1年8か月も働き続けたのか。」という発問で、児童の多様な考えを引き出した。

○「高める発問」では、事前のウェビングを生かし、この学習で新しく発見した「働く」という価値について引き出した。この発問を行ったことでテーマ発問で出された多様な意見を、この資料で気付いた新たな価値「人のために」「やりがい」「協力」など、児童の言葉でまとめることができた。

○児童の既習事項や考えたこと、経験したことを生かす発問構成をしたことで、生き生きと学習に参加し、「働く」という概念についてしっかり考えを深め合う授業展開となった。

〈児童の姿につなぐG、Tの活用〉

○終末には、1年生のために大豆畑の草取りに取り組んだ児童に、1年生担任が感謝の心についての逸話を話した。児童は、自分たちの中にある保之助さんと同じ心に気付き、余韻をもって授業を終えることができた。道徳の時間に、学んだ心と自分たちの生活と重なる説話は大変効果的で、児童の実践意欲の高まりも見られた。

発問構成の工夫(資料活用)

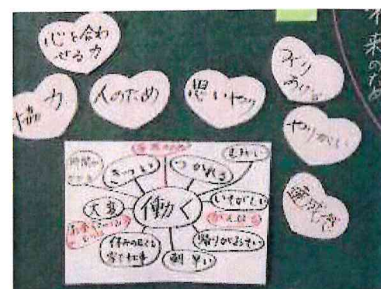
- 気付く発問** 資料と出会ったときに感じたこと、考えたことをつかむ発問
- テーマ発問** 資料の主題やテーマそのものにかかわって、それを掘り下げたり、追求したりする発問
- 高める発問** 多様な価値からよりよい価値に気づき、深める発問

「働く」をキーワードに話し合いました。

資料活用場面での発問構成の工夫



キーワードでまとめテーマ発問につないだ板書



事前に考えた「働く」のウェビング

〈「謙虚な心」をキーワードにした授業展開〉

○本資料では、「謙虚な心」を自覚するための授業展開を工夫した。アンケートの結果から、謙虚な心に関わる質問については、話や助言を聞く意識は全体的に高いが、人の助言をあまり聞けないと答えている児童も数名いた。謙虚な心が大切であると自覚した後に、自分たちの謙虚さ・謙虚であることのよさを再確認する活動を行うことにした。

〈問題意識を高める導入の工夫〉

○山下選手の功績を示し、「なぜ203連勝できたのか。」と問うことで、児童に山下選手の心について考えることへの意欲を高めた。地域の先輩でもある山下選手の資料ということで、児童は大変興味をもって学習に取り組んだ。

〈心の動きをつかむ展開の工夫〉

○資料を読み聞かせる際には、児童が話の内容や山下選手の心の動きを捉えられるように、場面絵やハート図を掲示した。資料提示後には、板書の骨組みができあがるようにした。

○心に残ったことを発表する「気付く発問」では、価値に関わる感想がたくさん出た。クラスの実態によっては、感想を中心にした授業展開も可能である。

○「中心発問」では、板書を活用しながら、日本一の立場で大会の決勝にのぞむ前の山下選手の気持ちと、試合後の山下選手の気持ちを比べる発問を行った。この発問で、山下選手が大切にしようと思った心を児童が考え、本時のねらいとする価値の焦点化を図ることができた。

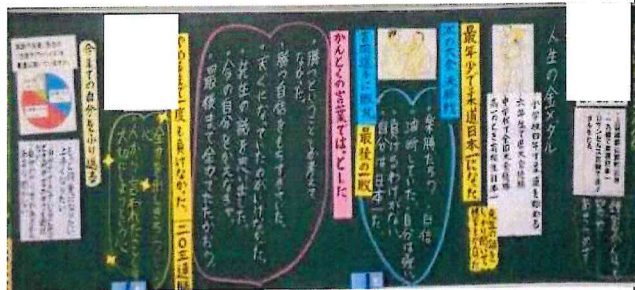
○自分を見つめる活動では、山下選手の姿と自分を重ねさせたり、事前のアンケート調査の結果を活用したりしながら、謙虚な心をもつことの大切さに気付かせていった。

〈児童の姿につなぐゲストティーチャー（GT）の活用〉

○本学級の児童は、日常生活で非常に謙虚であるが、自分たちの素直さやよさを自覚していないことが多い。それを自覚してほしいと考え、終末では、授業や委員会などで接する複数の先生方に児童の姿を話していただいた。何気なく行動している自分たちの姿が、素直で謙虚な心につながっていることを知り、児童も笑顔になり、余韻をもった終末となった。

○山下泰裕さんという偉大な人と自分たちをつなぐ手立てとしてGTの活用は、大変有効であった。

○先生方の話は、「5の2プライド」の中に掲示した。この掲示は、自分たちの成長や学級のがんばり、自分たちのよさに気づき、よりよい生き方について共有化する場になっている。



場面絵やハート図を使った板書



5-2プライドの掲示

2 学校における活用（「道徳の時間」以外での活用）

(1) PTAボランティアによる読み聞かせ

毎週行われるPTAによる読み聞かせでも「熊本の心」を活用した。資料の内容を知っている児童もいて、感想などを進んで発言していた。

活用のポイント

○読み聞かせの際は、できるだけ「読み聞かせグループ内での輪読会の実施」「PTAによる事前の読み込み」「読み聞かせ後の児童の感想を聞く場面の設定」「読み聞かせをした者による感想を話す場面の設定」を行うと、さらに効果的である。

(2) 朝読書での活用

朝自習で、「熊本の心」を読む時間を偶数学年で設定している。全ての資料を学習できるわけではないので、学習しなかった資料を中心に読むようにした。読んだ後に、感想を交流する時間を取ることもあった。できるだけ、多くの資料と出会う場を意図的に位置付けるように心がけた。

活用のポイント

○奇数学年では次年度の年間計画への配慮が必要である。朝読書でのDVD視聴等も考えられる。テーマを設定し、資料を読んだ後に感想の交流を行えば、価値に関わる意見の交流や話し合いも可能である。

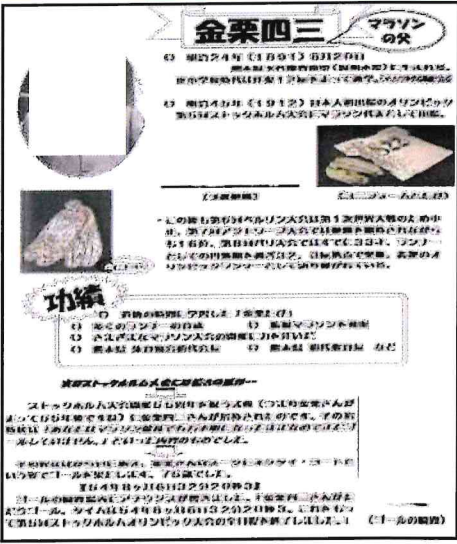
3 家庭・地域での活用, 啓発

(1) 道徳通信

道徳の時間の学習後、保護者への啓発をかねて道徳通信を発行している。通信では、授業の様子や感想等を中心に紹介している。5年「金栗たび」の学習では、資料の本文と金栗四三さんのことをまとめた。児童は、学習した金栗さんのことをさらに詳しく知ることができ、郷土の偉人に対する興味が増した。さらに、通信を配布することで保護者への啓発になり、郷土の偉人や「熊本の心」の内容を伝える場になっている。

活用のポイント

○事前に調べたことを授業で全部伝えるわけではない。通信を通してその人物の生き方について知らせることもできる。また、総合的な学習の時間や社会科等と関連させられる人物であれば、児童が調べる方法も考えられる。



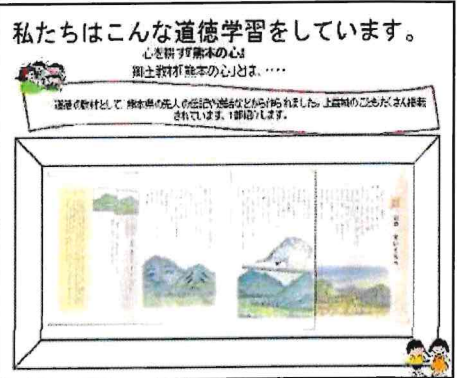
「金栗たび」の道徳通信

(2) 学習発表会での啓発「道徳コーナー」

学習発表会では、多くの方に「熊本の心」について知ってもらうために「道徳コーナー」を設置した。「熊本の心」の資料の内容や授業の様子をコメントつきで紹介した。この掲示で、「熊本の心」や本校の道徳の授業について周知することができた。

活用のポイント

○掲示物を応用紙サイズにし、カラーにしたので、人目を引いていた。学習発表会後は、校内に道徳コーナーを作り常時掲示したので、児童も関心をもって見ていた。



「熊本の心」を掲示した道徳コーナー

1 学校における活用（「道徳の時間」での活用）

小6年	資料名「九百九十九段め」	内容項目 1－（2）
-----	--------------	------------

（1）事前の準備

- ・資料内の中心人物である松田喜一氏のご子息，松田昭人氏への取材
- ・松田昭人氏のコメント撮影（ビデオレター用）

（2）本時の学習（実践事例）

① ねらい

より高い目標の実現のため，困難や失敗にくじけないで，粘り強く物事をやり遂げようとする態度を養う。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 松田喜一さんについて，学んだことや知っていることを発表する。	○松田喜一さんのことについて，知っていることを教えてください。 ・様々な言葉を残した。 ・農業学校を開いた。 ○松田喜一さんが何を学んでほしいと思っているか，しっかり考えましょう。	○事前に総合的な学習の時間で学んだ郷土の偉人，松田喜一さんの功績や残した言葉について，簡単に確認する。	松田神社の写真（松田喜一さんの石像や銅像など）
展開	2 資料文「九百九十九段め」の前半をDVDで視聴する。 ○感想を出し合う。 ○黒石原で失敗した時の気持ちについて考える。	○感想を発表しましょう。 ・あの喜一さんが，何回も失敗していたということを初めて知った。 ・「九百九十九段め」とは，何だろう。 ○黒石原で何度も失敗した時の松田さんは，どんな気持ちだったでしょう。 ・何度でも頑張ろう。 ・さすがに，もう無理かもしれない。 ・理想の農業を目指すんだ。	○松田さんが，八代に農場を開く前の黒石原での出来事であることをあらかじめ話しておくこと，また，黒石原の場面と八代での成功と分けて提示することで話を理解しやすくする。	熊本県の地図を掲示し位置を確認（八代と黒石原） 範読DVD フラッシュカード 松田喜一さんの写真を掲示
	3 後半を視聴す	○八代で，松田喜一さん	○八代での成功は，黒	

	<p>る。</p> <p>○八代での成功の理由について考える。</p> <p>○「九百九十九段め」という言葉について考える。</p> <p>4 目標に向かう「今の自分」についてのアンケート結果を知る。</p>	<p>が成功できたのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒石原での失敗の原因に気づき、「土づくり」を最大の目標にしたから。 ・諦めずに研究を重ねたから。 <p>◎「九百九十九段め」とはどういう意味だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって一歩一歩努力することが大切だということ。 ・すべての一段がどれも大切だということ。 <p>○アンケートを紹介し、自分を振り返りましょう。</p>	<p>石原での失敗にもあきらめずに努力したからであることに気付かせる。そして、松田さんでも失敗したことがあるということで、自分も諦めずに頑張ろうとする気持ちをもつことへつなげたい。</p> <p>○めあてに迫る発問があるので、書く活動によりしっかり考えさせ児童の様々な言葉で答えさせたい。</p> <p>○自分の目標との関連を図り、プラス面の自分を様々な観点で振り返らせることで、今後の実践意欲につなげさせたい。</p>	<p>松田喜一さんの名言「土作れ、人作れ」を書いた広用紙を掲示</p> <p>道徳ノート</p>
終末	<p>5 松田喜一さんのご子息、松田昭人さんから、喜一さんの様子と、子どもたちへの励ましの言葉を聞く。</p>	<p>○松田昭人さんからのメッセージを聞きましょう。</p>	<p>○松田昭人さんからの励ましのメッセージを聞き、目標に向かって努力することの大切さを感じさせたい。</p>	<p>ビデオメッセージ</p>

活用のポイント

<資料について>

○本展開案では地域に資料と関連のある人物や場所がある場合の展開を示したが、関連のある人物や場所がない場合はその地域の特徴のある人材、場所等におきかえて展開すると効果的である。

<付属の朗読DVDの活用>

○資料との出会いは、児童にとって本時の価値と出会う大変重要なものである。その出会いに付属の朗読DVDを活用することにより、より高い効果が得られる。DVDの朗読は、専門家により行われているので、授業者固有のイントネーションなどに影響されることなく児童は朗読に聞き入ることができる。また、授業者が範読する場合、児童の反応を見ることは難しいが、DVDを活用することで授業者はその時間の児童の様子や表情を見ることができ、児童がどのように受け止め感じ取っているかを、その後の展開に生かすことができる。更に、児童はDVDの映像を見ることで、資料に描かれている情景をイメージ化することができ、資料理解の一助となる。

- DVDの映像には、副読本と同じ文章と挿絵が映し出されるが、それを目で追う児童の中には、そちらに気をとられてしまう場合もあるので注意する必要がある。
- DVDの朗読はスピードの調整ができないので、スピード調整が可能なDVD再生用ソフトウェアを活用すると、より効果的である。

＜資料からの離れ方について＞

- 「熊本の心」の中の資料で、文章の量が多く内容も難しい場合、展開の前段で時間がかかりすぎてしまうことがある。そこで、人間理解や自己理解、価値理解に関する補助発問を精選し、中心発問や自分を見つめる展開後段に時間をかける必要がある。資料の中の出来事と似たような地元の事象を紹介し、価値に迫るようにすることで効果が高まる。

＜発問の工夫＞

- 「熊本の心」の資料の中には、偉人を紹介したものが多く、しかし、単に偉人の史実を読み取っていくことをねらいとしているわけではないので、資料を理解する上で必要な状況や難解な語句についての説明は、担任が最小限必要な情報を提示しながら授業を進めていくと有効である。発問のポイントとして、資料の中の中心人物が、

- ①どのような人なのか
- ②どのようなことをした人なのか
- ③どのようなところがすごいと思うか
- ④なぜ、それを続けていくことができたのか

以上の4点を意識して行った。国語の時間の文章を背景とした情景の読み取りとは違い、主人公がその行動を続けていくパワーの源となる背景はどんな心情なのかを読み取っていくことに重点を置く必要がある。その中で人間の弱さにも触れ、授業者が「自分にも同じ行動をとることは容易ではないが、近付けるように努力している」ことを語り、児童が「自分ならどうか」ということを考えるような、人間理解と自己理解を中心に発問を構成することが「熊本の心」を活用した授業を展開する上で重要である。

＜付属のワークシートの活用＞

- 道徳の時間における言語活動は、児童の心情や思考を整理し、その時間に目指しているより高い価値を獲得するために有効な手段である。1時間の授業でたくさんのシートを活用することはできないが、1枚か2枚のワークシートを活用することで、効果を高めることができる。この際、付属のCDのワークシートを活用することにより授業準備の時間を短縮することができる。



ワークシートの活用

＜終末の過程での工夫＞

- 児童にとって「熊本の心」がより身近な教材である所以は、地元の話が資料の中に出てくることである。よって、資料の中の登場人物本人やその親族の方などに直接思いを聞くことができるため、教材の内容をより児童の心に響くものに行うことができる。また、ビデオレターやゲストティーチャーとして子どもたちに話をさせていただくことで、児童の価値理解を深めることができる。特に、終末の過程において、価値に関わる説話をさせていただくことが、児童の道徳的実践意欲を高めることにつながる。ゲストティーチャーとして参加していただくことも有効であるが打合せの時間の確保等の問題も多い。ビデオレターを活用した授業展開を図ると、ビデオを編集することにより、限られた時間を有効に活用することができる点から効果的である。

2 学校における活用（「道徳の時間」以外での活用）

1 学校における活用（「道徳の時間」での活用）

小1年	資料名 「きゅうけい 先生」	内容項目 4-（4）
-----	----------------	------------

（1）事前の準備

- ・本時の学習に当たっては、事前に本校出身の教師や6年児童へ「あなたにとって学校の宝物は何ですか」と尋ねるアンケート調査を行った。そして、学習活動3で、本校卒業生や6年児童が捉える「学校の宝物」として紹介した。身近な学校の魅力を児童に紹介しながら学習活動4につなげることで、学校生活の様々なところに「宝物」があることを気付かせていくようにした。
- ・学習活動1及び4では、生活科の学校探検の時の写真やその時に作成したマップを用いた。特に学習活動4では、学校にはたくさんの宝物があることを視覚的に捉えさせながら、これから楽しく学校生活を過ごしていこうとする意欲を高めていくようにした。



生活科マップの活用

（2）本時の学習（実践事例）

① ねらい

学校の歴史、行事、大事にされてきた物に気づき、学校への愛着をもち、学校を大切にしようとする心情を育てる。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点	備考
導入	1 学校探検を想起する。	○学校探検でどんなものを発見しましたか。 ・音楽室。校庭のくすのき。	・学校探検を想起させ、学習の方向付けをする。	・学校探検の時の写真
展開	2 資料を聞き、話し合う。 ・資料の視聴 ・さくらの気持ち ・犬童球溪の説明 ・おばあさんの気持ち ・おばあさんの話を聞いた後のさくらの気持ち 3 卒業生や最上級生が感じる学校の宝物の話を聞く。 4 学習を自分と重ねて、学校の宝物について考える。	○さくらさんは校歌のことをどう思っているのでしょうか。 ○さくらさんはどんな気持ちで校歌を歌っていたのでしょうか。 ○おばあさんにとって犬童球溪先生はどんな先生なのでしょうか。 ◎おばあさんの話を聞いたさくらさんは、どんな気持ちになったでしょうか。 ・校歌は学校の宝物なんだなあ。 ○東小出身の先生や6年生にとって学校の宝物は何でしょうか。 ○みなさんは、学校の宝物は何だと思いましたか。 ・110年生きているくすのき。 ・球溪先生作の校歌が宝物。	・視点を与えて視聴させる。 ・付属DVDで資料提示を行う。 ・さくらの気持ちを心情メーターで表させる。 ・本校校歌も球溪作であることを知らせ、関連を図る。 ・身近な人の宝物を紹介し、様々な視点から価値に気付かせていく。	・朗読DVD ・電子黒板 ・挿絵① ・心情メーター ・挿絵② ・CD 「旅愁」 ・犬童球溪の写真 ・挿絵③ ・心情メーター
終末	5 校長の説話を聞く。	○東小のことをよく知っておられる校長先生から、東小の宝物についてお話を聞きましょう。	・学校に受け継がれているもの、それらに込められた思いに触れさせる。	・校旗

(1) 事前の準備

- ・ふるさと「人吉」のよさを想起できる写真を事前に撮っておき、「導入」場面で提示した。
- ・教室に小山勝清作品を常設するとともに、作品の読み聞かせを行い、小山勝清への関心を高めるようにした。
- ・インタビュー形式でのゲストティーチャー（GT）活用に取り組んだ。事前の打合せで、授業者のねらいを説明した。そして、打合せの中で出された具体的な内容から、必要な箇所を絞って当日話してもらうようお願いした。
- ・自作DVDを「終末」場面で活用した。

(2) 本時の学習（実践事例）

① ねらい

ふるさとのよさに気付き、ふるさとを大切にしようとする心情を育てる。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点	備考
導 入	1 ふるさとについて考える。	○ふるさとと聞いて思いうかべるのはどんなことですか。 ・自然。なつかしい。思い出。	・児童の身近な話題を取り上げ、方向付けをする。	・アンケート ・写真提示
展 開	2 資料を読んで話し合う。 ・資料の視聴 ・勝清の小さいころの生活の様子 ・何度も帰郷する勝清の気持ち 3 ゲストティーチャー（GT）による話を聞く。 4 学習を自分と重ね、これまでの生活を振り返って考える。	○勝清はふるさとのことをどう思っていたのでしょうか。 ○勝清は小さい頃どんな生活をしていましたか。 ○小さかった勝清は、故郷をどう思っていたのでしょうか。 ◎東京で仕事をしていた勝清がふるさとに何度も帰っていたのはどんな思いからでしょう。 ・なつかしい。安心できる。 ・大好きで無くしたくない。 ○勝清さんがふるさとを愛していたことが分かるエピソードを御紹介ください。 ○勝清のように、ふるさとはいいなあ、大切にしたいなあと思ったことはありませんか。	・視点を与えて視聴させる。 ・付属DVDで資料提示を行う。 ・様々な経験が勝清の心に思い出として残っていることに気付かせる。 ・勝清が何度もふるさとを訪ねた理由を話し合い、ねらいに迫っていく。 ・インタビュー形式を進める。 ・自分を振り返り、ふるさとのよさについて自分なりの考えをもたせる。	・付属DVD ・電子黒板 ・場面絵等 ・GT ・学習シート
終 末	5 DVDを視聴し本時の価値をあたためる。	○ふるさとの魅力を紹介します。	・音楽や写真を交えた自作DVDを視聴させる。	・自作DVD ・電子黒板

2 学校における活用（「道徳の時間」以外での活用）

1 学校における活用（「道徳の時間」での活用）

中2年	資料名「くず根ほる」	内容項目 1－(3)
-----	------------	------------

(1) 事前の準備

- ・「状況判断」に関するアンケートの実施と集計結果
- ・写真（くず根）
- ・くずの葉（実物）
- ・資料プリント（前後半に分けたもの）
- ・挿絵

(2) 本時の学習（実践事例）

① ねらい

他人の言動にむやみに左右されることなく、自らの力で状況を判断し、意志決定をしようとする態度を養う。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点	備考
導 入	1 事前のアンケートの結果を知る。	〈アンケート内容〉 自分が正しいと思っても行動に移せないことがあるか。	・アンケート結果は意識付けとして取り扱う程度とする。	アンケート結果 補助黒板
展 開	2 資料の前半を読み、課題をつかむ。 3 「自分が慶蔵ならどうするか」を考え、理由付けする。 4 資料後半を読み、慶蔵の行動について考える。 ・班で意見を交流する。 ・全体に発表し、ねらいに迫る。	○本時のねらいを知る。 ・「行動に移すには、何が大切か」を考える。 ○葛藤場面を設ける。 〈誘いにのる〉か〈断る〉か ・尊敬する先生からの誘いだ。 ・苦しんでいる人がいるのに。 ◎玉山の心を動かしたものは何か。 ○「心が許さない」という慶蔵の心とはどんな心か。 ・自分で決めたことは必ず実行しなければ自分を許せない。	・時代背景や登場人物について補足する。 ・人間関係を図示し、立場の違いを押さえる。 ・必ずどちらかに決めさせる。 ・慶蔵の判断理由に着目させる。 ・自分の決断を実行するには、欲望に負けない強さが必要なことに気付かせる。	短冊 資料プリント ワークシート 熊本の心 ホワイトボード
終 末	5 自分自身を振り返る。	○今までの自分の行動の仕方を振り返ってみよう。 ・よいと思っても行動に移せなかったのはなぜだろう。	・自分の意志で行動しようという意欲を高める。	ワークシート

活用のポイント

〈導入の工夫〉

①実物の準備

○7月に実施したので、葛の葉の実物を準備した。また、花と根については、写真を提示した。

○現在の生徒にとって、「くず」はくず餅やくずきりなど高級菓子の葛根（くずの根）は、漢方薬の原料のイメージである。葛の根の写真を準備し、当時の生活の様子とあわせて補足する。

②登場人物の紹介

○補助黒板を使って、登場人物についての説明を行った後、資料の読みに入る。時代背景、特に登場人物の立場の違いについて説明した。



くずの葉



補助黒板

〈展開の工夫〉

① 葛藤場面の設定

慶蔵と同じ立場で選択する場面を設け、共感しやすいように、個・ペア・班・全体と様々な学習形態を取り入れることで、自分の考えを伝え、まとめる場面や深める場面を工夫した。

個・ペア：自分の選択の結果と理由をとなりとペアを組み、意見交流する。

班：主発問に関しては、班で意見交流し、様々な立場での考えを聞けるようにする。

全体：班で出た意見をホワイトボードにまとめ、全体の場で発表する。

〈実施時期〉

○2年生の1学期での実践が適当と考える。江戸時代を学習したあとが効果的である。

〈指導のポイント〉

○師弟関係が厳しい時代において弟子の言うことを聞き入れる度量の大きさをもった玉山。それを許す校風をもった時習館という熊本の藩校の存在。そんな学校がこの時代に熊本にあったというすばらしさを伝えることで、郷土により一層誇りをもたせることができると考える。

中3年	資料名「ふるさとに文化の薫りを」	内容項目 4-(8)
-----	------------------	------------

(1) 事前の準備

- ・五足の靴の本 ・「五足の靴」短歌会の募集要項及び冊子 ・資料の挿絵、写真

(2) 本時の学習（実践事例）

① ねらい

ふるさとのために尽力した先人の思いを知り、これまでの自分を振り返って、郷土のために尽くそうとする心情を育てる。

② 展開と活用のポイント

過程	学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点	備考
導 入	1 地域での奉仕体験を振り返る。	○地域で行ったボランティア活動について振り返ってみよう。	・地域とのつながりを考えさせる。	
展 開	2 資料を読んで、濱名氏の主な業績を確かめる。	○濱名氏が「天草」への思いを強くさせたのは、どんなことだろう。 ・「五足の靴」等との出会い。	・あらすじをたどる中で、主な業績について確認する。	「五足の靴」の本
	3 濱名氏の思いについて考える。	○「天草」にもどり、行ったことはどんなことだろう。 ・短歌の指導・記念碑建設 ・「五足の靴と熊本・天草」の出版 ・全国短歌大会の創設 ◎「だいふ、肩の荷が軽くなった。」という言葉には濱名氏のどんな思いが込められているだろう。 ・やっとふるさとを文化の薫り高い土地にすることができた。 ・天草の人たちが、ふるさとに誇りがもるようになることができた。	・ワークシートに書かせた後、班で話し合い、感想の交流を行う。 ・数名の生徒に発させ、黒板に整理する。	ワークシート
	4 ふるさとへの思いを振り返る。	○これまでの自分を振り返りふるさとについて考えたことを書こう。	・自分のふるさとへの思いの変化を書かせる。	ワークシート
終 末	5 GT(学年主任)の話を聞く。	○浜名志松さんについてのエピソードを聞く。	・統合前の校歌の作曲者でもある濱名氏のことにもふれる。	

活用のポイント

〈導入の工夫〉

- 自分と地域のつながりについて考えられるように、ボランティア等に触れるが、興味を引き出す程度とする。
- 「五足の靴」の本、作品集を見せて、興味を喚起する。
- 今年度の五足の靴短歌会の募集要項を提示し、27回を数えることを伝える。
今も、受け継がれていること、龍ヶ岳中学校からも出品していることを伝える。

〈終末の過程での工夫〉

- 学年主任から、浜名志松先生の思い出を語ってもらう。
統合前の旧龍ヶ岳中学校と旧大道中学校の2つの中学校の校歌の作詞者が浜名志松先生であることを伝え、身近な存在として意識させた。

【ゲストティーチャー（GT）の話の主な内容】

GT：学年主任の話の内容：「私と濱名志松先生との出会い」

この「熊本の心」に出て来る濱名先生は、天草ではとても有名な先生でした。たまたま、熊本市内の学校でお孫さんを担任したこともあります。直接話したこともあります。とても、熱心に語られ、天草の歴史や文化にとってもお詳しい先生でした。やさしく、頼まれると一生懸命に取り組みされている先生でした。この熊本の心に載っているように天草の文化協会において重要な役割も果たされました。私の叔父が天草の文化協会にいたこともあり、濱名先生のことを聞いたこともありました。そして、何より私たちの世代は、濱名先生が編集された「天草の民話」を読んで育った世代です。天草各地で語り継がれていた民話を集められ、1冊の本として出版されました。その本を通じて、私たちは自分たちの知らないふるさとの地名や言い伝えに触れることができました。

また、天草の各小中学校の校歌の作詞にも多く携わっていらっしゃいます。今は統合して、少なくなりましたが、小中合わせて120校あったころ、40校以上の校歌の作詞をされています。天草の小中学校の3分の1以上になるのではないかと思います。

実は旧龍ヶ岳中学校と旧大道中学校の校歌も、濱名先生が作詞されました。龍ヶ岳中学校校門脇と旧大道中跡地には、校歌が刻まれた碑が建っています。みなさんも、見たことがありますね。ふるさと天草を愛して大事にされていた濱名先生でした。君たちも天草のことを大切にしてほしいなあと思います。

〈授業後〉・生徒の感想を掲示し、一人一人の気づきをみんなで共有する。

ワークシートから（生徒の感想）

- 私は天草にこんな素晴らしい人がいたことを知り、驚きました。今まで天草は田舎で、市内の方がよいとばかり思っていたのですが、天草にも短歌などの文化があり、よいところなんだと思いました。もっと、天草のことを知りたいと思ったので「天草の民話」なども読んでみたいです。
- 1冊の本に出会ってから、天草を文化の薫りの高い土地にするまで、いろんなことがあったと思いますが、全部成し遂げてきたことはすごいことだと思いました。自分の故郷に誇りをもってここまで大好きでいられることがかっこいいと思いました。自分もふるさとを大切にしていきたいです。

2 学校における活用（「道徳の時間」以外での活用）

(1) 全校集会での紹介

「熊本の心」の冊子について、全校集会で研究主任が紹介した。その資料を使って学習していくことで、学んでほしいことや目指す生徒像について説明し、授業づくりや自分づくりについて呼びかけた。

また、始業式の校長式辞で「熊本の心」の中の言葉を引用し、その言葉の意味や携わった人々の生き方に触れ、自分たちの生活の仕方を考えさせる一助として活用した。

活用のポイント

○短時間で資料全部を紹介するのは難しいので、作品の中の人物の生き方や印象的な言葉を取り上げる。興味をもった生徒が、その資料を読めるように担任から、補足説明する。学級に「熊本の心」を設置しておく。

(2) 「熊本の心」コーナーの設置

各学年の教室前に「熊本の心」コーナーを設置した。資料に登場した人物や地域の写真と授業で学習した内容等を掲示した。

活用のポイント

○配布のDVDの画像を取り込み、資料名や人物名を書き入れ、全資料の掲示用の写真を年度当初に準備して、授業に合わせて活用する。

3 家庭・地域での活用、啓発

(1) 授業参観での授業、説明冊子の配布

授業参観で、全学年「熊本の心」の資料を使って授業公開を行うと同時に、「熊本の心」に関する冊子を配布し、担任から説明した。

活用のポイント

○地域教材を取り扱くと、保護者の興味関心が高まる
○「郷土資料コーナー」を設置し、郷土の人物や歴史について合わせて紹介する。



(2) 学校便り、学級通信での紹介

学校便りや学級通信に、授業した資料についての紹介や授業内容、授業時の写真を記載した。また、学校便りで、ふるさとの自慢の風景の写真募集を行い、協力を呼び掛けた。写真は投票によってベスト5を選び、校舎に掲示した。

活用のポイント

○人物や地域の紹介を一緒に掲載し、自分たちの地域の話につなげると保護者の関心が高まる。

23日(火)に上天草市部会音楽会が行われました。みんな緊張の面持ちでしたが、自分たちの力を一杯出し切ることができたと思います。歌い終わった後は、満足そうな表情でした。残念ながら部会の音楽会に行くことはできませんが、生徒達にとってとてもいい経験になったと思います。

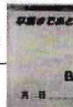
君と輝く

水曜日の道徳の時間は研究授業でした。多くの先生が参観されましたが、生徒達はいつも通り頑張ることができました。「真と絆」という資料を使い、それぞれの個性を尊重し、応い心で他の人と接することの大切さを学びました。

私は、夏の買込に驚きました。暑がらせましてくる相手に仕返しをするわけでもなく、父や先生から言われたとおり、色々な立場から考え、自分の気持ちを伝えようとしたのですごいと思いました。自分ほ弱々、相手のせいにしてたり、罵ったりするので、俺のような荒大な人間になりたくないです。また、絆のような価値に敬意を受け入れられる人間になりたいと思います。

※第2回の共通テストが終わりました。今回の結果をもとに、12月に三者面談を予定しています。計帳表を配付していますので、貴校の希望がありましたらお知らせください。

ご家庭から



学級通信

平成24年度熊本県道徳教育総合支援事業（道徳教育用郷土資料「熊本の心」活用事業）委託要項

熊本県教育委員会

1 趣旨

本県独自の道徳教育用郷土資料「熊本の心」の活用についての実践的研究を推進し、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実を図るとともに、家庭や地域と一体となった道徳教育を展開し、本県の教育の振興を図るため、「熊本県道徳教育総合支援事業（道徳教育用郷土資料「熊本の心」活用事業）」の推進地区として指定を受けた市町村に事業を委託する。

2 委託内容

委託を受けた市町村の教育委員会は推進校を選定し、地域や学校の実態に応じて「1 趣旨」に基づき、以下の内容について研究実践を行うものとする。

- (1) 道徳教育用郷土資料「熊本の心」を活用した道徳の時間等における計画的、効果的な実践の仕方
 - ① 道徳の時間の授業における道徳教育用郷土資料「熊本の心」を有効に活用する教材教具等及び学習指導案の蓄積
 - ② 道徳の時間以外の時間における道徳教育用郷土資料「熊本の心」の活用の工夫
- (2) 道徳の時間の年間指導計画における「熊本の心」の効果的な位置付けの仕方
 - ① 道徳教育用郷土資料「熊本の心」を位置付けた道徳の時間の年間指導計画の作成
- (3) 道徳教育用郷土資料「熊本の心」を活用した道徳の時間の授業公開等による家庭・地域の啓発や家庭や地域での活用の仕方
 - ① 道徳教育用郷土資料「熊本の心」を活用した道徳の時間を教育関係者及び地域等への公開及び保護者や地域への啓発
 - ② 道徳教育用郷土資料「熊本の心」の家庭や地域での活用

3 委託期間

委託契約を結んだ日から平成25年3月15日まで

4 委託手続き

- (1) 委託を受けようとする市町村は、事業の実施計画書を作成し、熊本県教育長に提出する。
- (2) 熊本県は、上記(1)により提出された実施計画書の内容が適当であると認めた場合に事業を委託することとし、当該市町村と委託契約を締結する。

5 委託経費

熊本県は、予算の範囲内で事業の実施に要する経費を委託費として支出する。ただし、委託を受けた市町村が選定した推進校1校当たり、上限を30万円とする。

6 事業の報告及び委託費の取扱い

(1) 委託を受けた市町村は、事業終了後速やかに事業実績書及び収支精算書を作成し、平成25年3月15日までに熊本県教育長あてに事業報告を行う。

なお、委託料の請求については、提出された事業実績書及び収支精算書が適当と認められた場合に、請求することができるものとする。

(2) 事業の実施過程において、実施計画の変更の必要が生じたときは、速やかに熊本県教育長に報告し、その指示を受けるものとする。

ただし、総経費の20%以内の項目間の変更については、この限りではない。

(3) 委託費の収入及び支出に当たっては、他の経費と区分して適当な帳簿を用い、整理して用途を明らかにしておくこと。領収書及び帳簿類については、事業完了後、翌年度から5年間保存しておくこと。

(4) 事業報告書及び委託費の取扱いについては、別に定めるものとする。

7 是正措置

熊本県教育長は、事業が本要項に定める趣旨に反すると認めるときは、必要な是正を講ずるよう求めることができる。